

法 学 部

履 修 要 項

平 成 元 年 度

駒澤大學



# 学 生 暦

## 前 期

- 4月8日(土) 入学式
- 10日(月) } 新生オリエンテーション
- 14日(金) } 在校生身分証明登録
- 10日(月) } 在校生成績発表
- 11日(火) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(月) } 受付(学部2年次生)
- 12日(水) } 在校生成績質疑応答
- 21日(金) } 前期授業開始
- 15日(土) } 履修届受付(学部・短大)
- 24日(月) } (学部により受付日が異なる)
- 27日(木) } 5月8日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 12日(金) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 25日(木) } 6月10日(土) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生および経済学部の2年次生)
- 12日(水) } 14日(金) } 中間試験(授業平常どおり)
- 20日(木) } 前期授業最終日
- 20日(木) } 前期終了科目定期試験
- 22日(土) } 24日(月) } 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 23日(日) } 体育実技II集中授業コース(学部2年次生)
- 27日(木) } 26日(水) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切

## 後 期

- 9月7日(木) } 補講期間
- 14日(木) } 16日(土) } 後期授業開始
- 18日(月) } 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付
- 19日(火) }

- 25日(月) } 前期終了科目追・再試験(授業平常どおり)
- 9月30日(土) } 10月3日(火) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 6日(金) } 3日(火) } 専攻コース指定届受付
- 4日(水) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(日) } 第107回開校記念日(全学休業)
- 11月8日(水) } 転部・転科願書受付
- 10日(金) } 24日(金) } 転部・転科試験
- 12月1日(金) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 11日(月) } 4日(月) } 編・再入学願書受付
- 8日(金) } 19日(火) } 冬季休暇第1日(1月6日まで)
- 19日(火) } 体育実技II集中授業コース(学部2年次生)
- 23日(土) } 20日(水) } 編・再入学試験

## 平成2年

- 1月8日(月) 後期授業再開
- 13日(土) 後期授業最終日
- 16日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(金) } 27日(土) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 2月5日(月) } 6日(火) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 6日(火) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 8日(木) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 19日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
- 23日(金) } 23日(金) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験
- 20日(水) } 24日(土) } 試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 24日(土) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)および追試験(学部1~3年次生)
- 3月2日(金) } 19日(月) } 卒業者名簿発表
- 25日(日) } 卒業式

# 学 生 暦 訂 正

## 教務部窓口（本部棟1階） および掲示板案内訂正

平成2年

- 1月8日(月) 後期授業再開
- 13日(土) 後期授業最終日
- 16日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(金) }
- 27日(土) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 2月5日(月) }
- 6日(火) 定期試験欠試験受付締切(学部4年次生・短大生)
- 6日(火) 定期試験欠試験(追試験申込)受付締切(学部1～3年次生)
- 8日(木) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 19日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
- 23日(金) }
- 19日(月) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 20日(火) }
- 24日(土) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)および追試験(学部1～3年次生)
- 3月2日(金) }
- 19日(月) 卒業者名簿発表
- 25日(日) 卒業式

### ①教職課程

学校図書館司書教諭講座

### ②博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

### ④証明書(教務関係)申込受付・発行

<健康診断書および在学証明書は学生部>

※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

### ⑤諸届願 (休学・復学・退学・死亡 改氏名・本籍地変更・保証人変更 保証人住所変更・聴講)

### ⑥大学院関係・留学生関係

卒業論文(仏教学部・文学部)

### ⑦時間割変更・休講・外国語指定届

卒業証書・転部転科

### ⑨履修・試験・成績・学業相談

学部演習 (仏教学部・経済学部  
法学部・経営学部)

## 他学部履修科目目次訂正

中国仏教史(佐藤 達玄).....	1	2	地方自治法(梅木 崇).....	9	10
近代文学(片岡 懋).....	2	3	経営統計(後藤 儀一郎).....	10	11
英米演劇特講(落合 和昭).....	3	4	国文講読Ⅲ(中世)(岡崎 正)...	11	12
都市地理学(今朝洞 重美).....	4	5	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄)...	12	13
財務会計論(遠藤 孝).....	7	8	応用計測学(檀尾 英次).....	12	13

※太文字は訂正箇所です。





# 目 次

## I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 ..... (1)
2. 授業科目の単位計算 ..... (1)
3. 授業科目の区分 ..... (1)

## II 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数 ..... (2)
2. 学 士 号 ..... (3)

## III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 ..... (4)
2. 外国語科目の履修方法 ..... (6)
3. 保健体育科目の履修方法 ..... (8)
4. 基礎教育科目の履修方法 ..... (9)
5. 専門教育科目の履修方法 ..... (9)
6. 他学部科目の履修方法 ..... (14)
7. 随意科目の履修方法 ..... (16)
8. 再履修科目の履修方法 ..... (16)
  - ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 ..... (16)
  - ※ 授業科目のコード番号について ..... (17)

## IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 ..... (18)
2. 履修届記入上の注意 ..... (19)
3. 履修届（時間割）の作成順序 ..... (20)

## V 試験および成績評価

1. 定期試験 ..... (21)
2. 中間試験 ..... (21)
3. 追・再試験 ..... (21)
4. 受験心得 ..... (22)
5. 成績評価・単位認定 ..... (22)
6. 試験時間 ..... (22)

VI	進級について	(23)
VII	クラス制およびクラス主任	(24)
VIII	教職課程・資格講座	(24)
IX	事務取扱いについて	
	1. 成績発表・成績証明書	(25)
	2. 授業時間	(25)
	3. 事務室の事務受付時間	(25)
	4. 休 講	(25)
	5. 掲 示	(25)
	6. 問い合わせ	(25)
X	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(26)
	2. 休 学	(26)
	3. 復 学	(26)
	4. 退 学	(27)
	5. 除 籍	(27)
	6. 懲 戒	(27)
	7. 編 入 学 (学士入学)	(27)
	8. 再 入 学	(27)
	9. 転部・転科	(27)
	10. 留 学	(28)
	11. 学生氏名・保証人	(28)
	12. 学生番号	(28)
XI	既修得単位の認定について	(29)
XII	届書・願書について	(30)
XIII	各種証明書取扱い窓口	(31)
	試験実施規程 (抜粋)	(32)
	講義内容	(35)
付 録		
	研究所案内	(付1)
	国家試験について	(付2)



# I 単位制と学年制

## 1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

## 2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

## 3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 他学部科目（選択科目）
7. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

- (a) 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
- (b) 選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
- (c) 選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

## Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

### 1. 卒業に必要な単位数

#### A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 142以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	12	48	86	
	選択		38		

#### B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 142以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	12	48	86	
	選択		38		



## 2. 学 士 号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

法学部	{	法律学科	……	法 学 士
		政治学科	……	政 治 学 士

### Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

#### 授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に担当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。）
- ハ. 各学年に担当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に担当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

#### 1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

#### 法律学科

人文分野	4科目	計16単位	}	合計9科目	36単位
社会分野	3科目	計12単位			
自然分野	2科目	計8単位			

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	}	16	}	
	宗教学Ⅱ（2年次必修）	4				
	哲学	4				
	論理学	4				
	倫理学	4				
社会分野	政治学	4	}	12	}	36
	経済学	4				
	社会学	4				
	統計学	4				
	文化人類学	4				
自然分野	自然科学概論	4	}	8	}	
	地理学	4				
	心理学	4				
	コンピュータ概論	4				
	生物学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は水曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

※「コンピュータ概論」を受講（人数 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）



## 政治学科

人文分野 4科目 計16単位  
 社会分野 3科目 計12単位  
 自然分野 2科目 計8単位

} 合計9科目 36単位

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ(1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16		
	宗教学Ⅱ(2年次必修)	4				
	哲学	4				
	倫理	4				
	文	4				
社会分野	法	4	3科目選択必修	12	36	
	経	4				
	社	4				
	統	4				
文化人類学	4					
自然分野	自然科学概論	4	2科目選択必修	8		
	地	4				
	心	4				
	コンピュータ概論	4				
	生物	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は水曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。

※「コンピュータ概論」を受講(人数100名)希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。(最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。)

## 2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになり、その2ヵ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

### 1年次の履修

6ヵ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 1G	2		1G・1Rの2科目を必修とする。ただし1Gは「英会話I（定員40名）」または「英語LLI（定員30名）」に振り替えできる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 1R	2		
英会話 I	2		
英語 L L I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 1G	2	文 法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語1G・1Rの2科目を必修とする。
ドイツ語 1R	2	講 読	
フランス語 1G	2	文 法	
フランス語 1R	2	講 読	
中国語 1G	2	文 法	
中国語 1R	2	講 読	
スペイン語 1G	2	文 法	
スペイン語 1R	2	講 読	
ロシア語 1G	2	文 法	
ロシア語 1R	2	講 読	

#### ※ 英語科目内容

英語 1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL…………ランゲージ・ラボラトリー

※「英語 1R」の授業は水曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。



## 2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修とすること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2 A I	2		中 国 語 2 A I	2	講 読
英 語 2 A II	2		中 国 語 2 A II	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A I	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A I	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A II	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A II	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A I	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A I	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A II	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A II	2	講 読

### ※ 英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

## 外国語科目履修上の注意

イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。

ロ. 1年次の7月6日（木）～12日（水）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず行うこと。

ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。

ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

### 3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

#### A. 昭和60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は水曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

#### B. 昭和59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前 期 ま た は 後 期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

#### 4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次において1科目4単位を必修とする。

##### 法律学科

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	法学概論	4	

##### 政治学科

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎政治学	4	

#### 5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

# 法律学科

## 必修科目

### A. 昭和58年度以降入学生適用 (48単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
憲 法	4		刑 法 II	4	各論
民 法 I	4	総則	商 法 II	4	商行為・手形・小切手法
2 年 次 必 修			民事訴訟法 I	4	判決手続
行 政 法 I	4	総論	4 年 次 必 修		
刑 法 I	4	総論	刑 事 訴 訟 法	4	
民 法 II (1)	4	物権法			
民 法 III (1)	4	債権総論			
商 法 I	4	総則・会社法			
国 際 法 I	4				

### B. 昭和57年度以前入学生適用 (48単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
憲 法	4		刑 法 II	4	各論
民 法 I	4	総則	民 法 III (1)	4	債権総論 (旧「民法III」)
2 年 次 必 修			商 法 II	4	商行為・手形・小切手法
行 政 法 I	4	総論	民事訴訟法 I	4	判決手続
刑 法 I	4	総論	4 年 次 必 修		
民 法 II (1)	4	物権法 (旧「民法II」)	刑 事 訴 訟 法	4	
商 法 I	4	総則・会社法			
国 際 法 I	4				



# 法律学科

## 選択科目 (38単位以上)

1 年 次 選 択			3 年 次 選 択			
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考	
民法 IV (1)	4	親族	労 働 法	4		
2 年 次 選 択			税 法	4		
政治学原論	4		公 害 法	4	休 講	
マス・コミュニケーション論	4		社会 保 障 法	4		
政 治 史	4		外 交 史	4		
法 思 想 史	4		国 際 法 II	4		
経 済 原 論	4		国 際 私 法	4		
裁 判 法	4		時 事 英 語	4		
外 国 法	英 米 法	4	演 習	4		
	独 法	4	外 書 講 読	英 書	4	
	仏 法	4		独 書	4	
	社会主義法	4		仏 書	4	
3 年 次 選 択				中 国 書	4	
法 社 会 学	4		ス ペ イ ン 書	4		
行 政 学	4		4 年 次 選 択			
財 政 学	4		法 哲 学	4		
日 本 法 制 史	4		民 法 IV (2)	4	相 続	
西 洋 法 制 史	4		倒 産 法	4	※ハ 旧「破産法」	
国 際 関 係 論	4		商 法 III	4	保 険 ・ 海 商	
経 済 政 策	4		知 的 財 産 権 法	4	※ニ 旧「工業所有権法」	
社 会 政 策	4	休 講	民 事 訴 訟 法 II	4	上 訴 以 後 強 制 執 行	
刑 事 政 策	4		政 治 思 想 史	4		
比 較 憲 法	4		演 習	4		
行 政 法 II	4	各 論	外 書 講 読	英 書	4	
民 法 II (2)	4	※イ 担 保 物 権		独 書	4	
民 法 III (2)	4	※ロ 債 権 各 論		仏 書	4	
地 方 自 治 法	4			中 国 書	4	
経 済 法	4			ス ペ イ ン 書	4	

※イ、昭和58年度以降入学生適用 } 昭和57年度以前入学生は履修できない。  
 ※ロ、昭和58年度以降入学生適用

※ハ、「倒産法」は従前の「破産法」を名称変更したものである。既に「破産法」の単位を修得した学生は履修できない。

※ニ、「知的財産権法」は従前の「工業所有権法」を名称変更したものである。既に「工業所有権法」の単位を修得した学生は履修できない。

# 政治学科

必修科目 (48単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
憲 法	4		政治社会学	4	
2 年 次 必 修			行 政 学	4	
政治学原論	4		国際政治学	4	
日本政治史	4		外 交 史	4	
経 済 原 論	4		政治制度	4	
行政法 (総論)	4		4 年 次 必 修		
国 際 法	4		政治思想史	4	

# 政治学科

## 選択科目 (38単位以上)

1 年 次 選 択			3 ・ 4 年 次 選 択		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
海外政治事情	東アジア圏	4	履修希望者は7地域圏より1科目選択履修すること。 (2科目履修は不可)	政治心理学	4
	西欧圏	4		財政学	4
	東欧圏	4		国際経済学	4
	北米圏	4		日本法制史	4
	中近東圏	4		西洋法制史	4
	アフリカ			西洋政治史	4
	東南アジア圏	4		福祉国家論	4
中南米圏	4	経済政策	4		
2 年 次 選 択			社会政策	4	休 講
社会学原理	4		刑事政策	4	
マス・コミュニケーション論	4		比較憲法	4	
比較社会構造論	4		行政法(各論)	4	
刑法	4		経済法	4	
民法	4		商法	4	
外国法(英米法)	4		労働法	4	
現代政治理論	4	※イ 休 講	比較政治学	4	
プロゼミ	2		財政史	4	
3 年 次 選 択			東洋政治史	4	
演 習	4		国際関係論	4	
外書講読 I	英 書	4	国家安全保障論	4	
	独 書	4	宣伝広告論	4	
	仏 書	4	政党論	4	
	中国書	4	議会関係法	4	
	スペイン書	4	地方自治法	4	
4 年 次 選 択			国際取引法	4	休 講
演 習	4		出入国管理論	4	
外書講読 II	英 書	4	時事英語	4	
	独 書	4	地方行政	4	※ロ 休 講
	仏 書	4			
	中国書	4			
	スペイン書	4			

※イ. 昭和63年度以降入学生適用 } 昭和62年度以前入学生は履修できない。  
 ※ロ. 昭和63年度以降入学生適用

## 6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

### イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表 参照）

### ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

### ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

### ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

### ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

### ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.16）を参照のこと。

### ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。



他学部履修科目一覧表

開設 学科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	開設 学科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
禪 学 科	禪 学 特 講 I	4	3・4		經 濟 学 科	ソビエト経済論	4	3・4	
	禪 学 特 講 II	4	3・4			国民所得論	4	3・4	
	禪 学 特 講 III	4	3・4			中国経済論	4	3・4	
	禪 学 特 講 IV	4	3・4			アジア経済論	4	3・4	
	禪 学 思 想 史	4	3・4			日本経済史	4	3・4	
	哲 学 史	4	3・4			中小企業論	4	3・4	
仏 教 学 科	印 度 仏 教 史	4	3・4		商 学 科	教育経済論	4	3・4	
	中 国 仏 教 史	4	3・4			アメリカ経済論	4	3・4	
	日 本 仏 教 史	4	3・4			財務会計論	4	3・4	
	日 用 経 典	4	3・4			管理会計論	4	3・4	
	仏 教 美 術	4	3・4			会計監査論	4	3・4	
	現 代 哲 学 概 説	4	3・4			商業政策	4	3・4	
国 文 学 科	上 代 文 学	4	3・4		法 律 学 科	貿 易 論	4	3・4	
	中 世 文 学	4	3・4			マーケティング	4	3・4	
	近 世 文 学	4	3・4			原価計算論	4	3・4	
	近 代 文 学	4	3・4			労務管理論	4	3・4	
	中 国 文 学	4	3・4			民法Ⅳ(1)	4	3・4	法律学科 除く
英 米 文 学 科	英文学特講Ⅰ(英文学16・17c)	4	3・4		民法Ⅳ(2)	4	4	法律学科 除く	
	英文学特講Ⅱ(英文学18c)	4	3・4		政 治 学 科	西洋政治史	4	3・4	政治学科 除く
	英文学特講Ⅲ(詩19・20c)	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4	政治学科 除く
	英文学特講Ⅳ(小説Ⅰ 19c)	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	政治学科 除く
	英文学特講Ⅴ(小説Ⅱ 20c)	4	3・4			經 營 学 科	経営学史	4	3・4
	英文学特講Ⅵ(批評19・20c)	4	3・4		国際経営論		4	3・4	休 講
	英米演劇特講	4	3・4		経営統計		4	3・4	
	米文学特講Ⅰ(詩)	4	3・4		保険経営論		4	3・4	
	米文学特講Ⅲ(小説Ⅱ)	4	3・4		財務会計論		4	3・4	
地 理 学 科	地 質 学	4	3・4		経営分析論		4	3・4	
	気 候 学	4	3・4		財務会計論		4	3・4	
	人 口 地 理 学	4	3・4		経営論		4	3・4	休 講
	応 用 地 理 学 I	4	3・4		商業史		4	3・4	
	都 市 地 理 学	4	3・4		短 大 国 文 学 科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	
	文 化 地 理 学	4	3・4			国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	
歴 史 学 科	日 本 仏 教 史 II	4	3・4	休 講		国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	
	日 本 史 特 講 VII(近 代)	4	3・4			国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4	
	東 洋 史 特 講 X(近・現代)	4	3・4			国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4	
	西 洋 文 化 史 I	4	3・4	休 講	国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
	歴 史 哲 学	4	3・4		短 英 文 大 科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	
	哲 学 史	4	3・4			短 放 射 線 大 科	計算機言語概論	2	3・4
	社 会 学 科	日 本 民 俗 学	4	3・4					
産 業 社 会 学		4	3・4						
都 市 社 会 学		4	3・4						
	社 会 福 祉 発 達 史	4	3・4						

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

## 7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
比較思想特講	4		ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(初級)	2	
ドイツ語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
フランス語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
中国語 F	2		フランス語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	
スペイン語 F	2		中国語FLL(初級)	2				
ロシア語 F	2		中国語FLL(中級)	2				

## 8. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合、授業科目名が同じであれば担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技Ⅰ（昭和59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
  - 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
  - 昭和62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または昭和63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。
- （注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部    学科    系列    分野    一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.28参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	4
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実            技		1
講            義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

## IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

### 1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 7 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 7 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

### II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.14参照）は，履修登録できる。

また，課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

## 2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日			
授業科目	科目コード	担 当	担当コード
ドイツ語 1 G	412201	百 済	879
一 時 限			
保健体育理論(前期)	414201	長 濱	A10
保健体育理論(後期)			622
二 時 限			
宗 教 学 I	410101	平井(俊)	735
三 時 限			
論 理 学	410203	國 嶋	306
四 時 限			
自然科学概論	410401	宇 和 川	104
五 時 限			

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科 目 名	科目コード	担 当	担 当 コード
(1)	1		ドイツ語 1 G	4 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前期)	4 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	4 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	4 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	4 1 0 4 0 1	宇 和 川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

- (1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合
- (2) 時限を誤って記入した場合
- (3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0と6, 1と7)
- (4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。



### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

#### 法律学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	法学概論（必修）	1
5	専門教育科目	憲法，民法Ⅰ（必修）	2
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から4または5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	} 5
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

#### 政治学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎政治学（必修）	1
5	専門教育科目	憲法（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5または6科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	} 6
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月21日（金）～22日（土）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日（火）～2月5日（月）に実施される。
- ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。  
なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。  
（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示板参照）
- ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II) 再 試 験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。  
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習は追・再試験とも行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

#### 4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。  
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

#### 6. 試験時間

定期試験実施時間(前期・後期とも)		追・再試験実施時間(前期)	追・再試験実施時間(後期)
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30	1時限 16:10～17:00	1時限 9:30～10:20
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50	2時限 17:10～18:00	2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10		3時限 13:00～13:50
			4時限 14:10～15:00
			5時限 15:20～16:10

試験実施規程(抜粋)が掲載されている(P.32)ので参照のこと。

## VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数に達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。  
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	99単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	99単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	98単位以下。または99単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

## Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 1年次は学科毎にクラス制をとっている。
- ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。ただし、平成元年度は実施しない。

## Ⅷ 教職課程・資格講座

法学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1級・高等学校2級の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。



## IX 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

### 3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## X 学籍について

### 1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

### 2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

#### I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
  - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
  - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類
  - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

#### II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

#### III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

#### IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

### 3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

#### 4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

- イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。
- ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。
- ハ. 退学年月日は次のとおりとする。
  - (1) 当該期学費納入者 ……… 退学願提出日
  - (2) 当該期学費未納者 ……… 学費納入済学期の最終日

#### 5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

- イ. 在学年数を越えた者
- ロ. 休学期間を越えた者
- ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

#### 6. 懲 戒

- イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。
- ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。
  - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
  - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
  - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
  - (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

#### 7. 編 入 学(学士入学)

本大学卒業者(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次または2年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

- イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。
- ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たぬとする。

#### 8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

- イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。
- ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)
- ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

#### 9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

## 10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

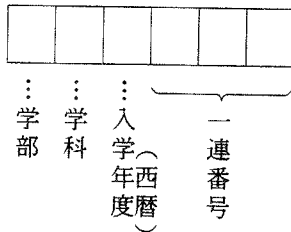
## 11. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

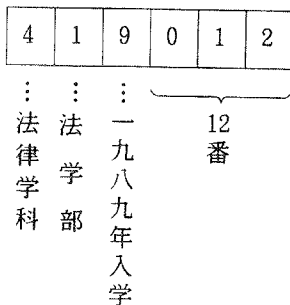
## 12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1989年度入学・法学部  
法律学科12番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

## XI 既修得単位の認定について

### イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

### ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位に算入される。

### ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位に算入される。

## XII 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類		要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届 書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること。</li> </ul>	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示参照）</li> </ul>	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・戸籍抄本添付。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県名）変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・住民票記載事項証明書添付。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・在学誓書（保証書）添付。</li> </ul>	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・死亡が証明できる書類（写し可）添付。</li> </ul>	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・傷病による場合は、医師の診断書添付。</li> <li>・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類。</li> <li>・その他の場合は、保証人連署の理由書。</li> </ul>	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付。</li> <li>・4月10日までに提出すること。</li> </ul>	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・学生証添付。</li> </ul>	要	要	

### XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円  { 英文証明書 } 1通 300円
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。



## 試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
  - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
  - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
  - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間審査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
  - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
  - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。



## 講義内容目次

一般教育科目(共通) .....	(38)
保健体育科目(共通) .....	(44)
随意科目(共通) .....	(45)
法 律 学 科 .....	(49)
政 治 学 科 .....	(60)
他学部履修科目(共通) .....	(71)

### [卷 末]

教職および資格講座



## 一般教育科目 (共通)

人文分野	
宗教学Ⅰ (佐藤 憲昭) .....	38
宗教学Ⅰ (山端 昭道) .....	38
宗教学Ⅰ (菅原 壽清) .....	38
宗教学Ⅰ (再クラス) (岡部 和雄) .....	38
宗教学Ⅰ (再クラス) (奈良 康明) .....	38
宗教学Ⅱ (黒丸 寛之) .....	38
宗教学Ⅱ (青龍 宗二) .....	38
宗教学Ⅱ (新井 勝龍) .....	39
宗教学Ⅱ (原田 弘道) .....	39
宗教学Ⅱ (小坂 機融) .....	39
宗教学Ⅱ (佐々木 章格) .....	39
宗教学Ⅱ (永井 政之) .....	39
哲学 (川戸 好武・小宮山 隆・ 片桐 茂博) .....	39
論理学 (片桐 茂博・戸田 洋樹・ 木原 英逸) .....	40
倫理学 (國嶋 一則) .....	40
倫理学 (松田 文雄) .....	40
文学 (忠鉢 仁) .....	40
文学 (田澤 英藏) .....	40
社会分野	
法学 (梅木 崇) .....	40
政治学 (福岡 政行) .....	40
社会学 (長谷部 八朗) .....	41
社会学 (橋爪 敏) .....	41
統計学 (飯塚 仁之助) .....	41
文化人類学 (加治 明) .....	41
文化人類学 (蒲原 大作) .....	41
文化人類学 (村武 慶) .....	41
経済学 (小野 俊夫) .....	41
自然分野	
自然科学概論 (篠原 正雄) .....	42
自然科学概論 (小島 道也) .....	42
地学 (宇和川 正人) .....	42
地学 (長沼 信夫) .....	42
地学 (漆原 和子) .....	42
心理学 (板津 裕己) .....	42
心理学 (高橋 良博) .....	42
心理学 (茅原 正) .....	42
コンピュータ概論 (三好 重明) .....	43
生物学 (清水 善和) .....	43

## 保健体育科目 (共通)

保健体育理論 (大石 武士) .....	44
保健体育理論 (田中 佳孝) .....	44
保健体育理論 (宮沢 栄作) .....	44

保健体育理論 (再クラス) (長濱 友雄) .....	44
保健体育理論 (再クラス) (森本 葵) .....	44

## 随意科目 (共通)

比較思想特講 (窪 徳忠) .....	45
ドイツ語 F (吾妻 雄次郎) .....	45
ドイツ語 F L L (初級) (松本 洋子) .....	45
ドイツ語 F L L (中級) (野島 利彰) .....	45
フランス語 F (加藤 節子) .....	45
フランス語 F L L (初級) (加藤 節子) .....	45
フランス語 F L L (初級) (M. マルタン) .....	45
フランス語 F L L (中級) (M. マルタン) .....	45
中国語 F (釜屋 修) .....	46
中国語 F L L (初級) (釜屋 修) .....	46
中国語 F L L (中級) (羅 濂明) .....	46
スペイン語 F (佐藤 玖美子) .....	46
スペイン語 F L L (初級) (M. アルマラス) .....	46
スペイン語 F L L (中級) (M. アルマラス) .....	46
ロシア語 F (杉山 秀子) .....	46
ロシア語 F L L (初級) (野村 タチアナ) .....	46
ロシア語 F L L (中級) (野村 タチアナ) .....	46

# 一般教育科目(共通)

## 人文分野

### 宗 教 学 I

佐藤 憲昭

呪術=宗教は、人間・社会にとってどのような意味と役割をもっているか、他の文化諸領域との関連のもとに考察する。現在調査をころみている領域の事例なども含めて、日本各地の事例をできるだけ多く紹介し、諸民族との比較において、1. 救いの諸相、2. シャーマニズム、3. 憑霊信仰、4. 邪術・妖術信仰、5. 祖先崇拜、6. 教義信仰、7. 呪術=宗教複合などのテーマを取り上げて具体的に検討する。さらに、仏教の基本的な観念や行動についても考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』

（日新出版）

佐々木宏幹『人間と宗教のあいだ』

（南斗書房）

### 宗 教 学 I

山端 昭道

次の点を柱として、講義を進めたい。

1. われわれの周囲には、さまざまな宗教現象やそれに関する事象が在る。それらを知り、現代人としてのわれわれと宗教とのかゝわりを考え、また自己自身の確立のために、宗教のもつ価値や意義を問う。
2. わが国の文化や社会、また異なった国々のそれらや人びとを知る上で、その国の宗教理解は欠かせない。過去から現在に至る重要な宗教の諸相へ理解を深める。
3. わが国の年中行事のいくつかを切り上げ、その背後に在る日本人の宗教意識を知り、かつその現代的意義を考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗 教 学 I

菅原 壽清

前期において人間生活と宗教とのかかわりあい、宗教学の学問的領域、その研究方法、さらに宗教の分類等に

ついて基本的な考え方を概説する。後期においては、さまざまな宗教現象のうちから身近な問題を取りあげて、宗教と法との関わりなど宗教の基本的な考え方について、とらえていきたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗 教 学 I (再クラス)

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマを取りあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教の歩んだ道1』（東京書籍）

### 宗 教 学 I (再クラス)

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来うるかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教のおしえ』（東京書籍）

### 宗 教 学 II

黒丸 寛之

仏教に対する全般的理解を深めるとともに、禅についての歴史と思想、および禅文化と人間観などについて講述する。

### 宗 教 学 II

青龍 宗二

この講座は「宗教学I」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関り合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

## 宗 教 学 II

新 井 勝 龍

人間が人間として価値あらしめられるのは、生きる意義の自覚にある。この自覚とは、一言でいえば、自己実現と社会関係の確立に帰する。学問を含め一切の価値ある人間活動は、これをめぐるものに外ならない。禅はこの問題に対し、すぐれた理論と実践による根本的な答をもっている。これは諸部門総合化の現代における、禅の位置を示している。

本講座はこの意味において、禅の特質を明らかにすべく、特に禅の個人観、社会観更に禅の実践論を中心として、現在の自己自身における、絶対的意義把握の道を探究してゆきたい。

〔教科書〕 ノートによる。

〔参考書〕 田村芳朗『日本仏教史入門』

## 宗 教 学 II

原 田 弘 道

仏教就中禅を中心に講義を進めてゆく。まず禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、人間生活と禅の真理、禅的生活の展開、禅と文化、禅と現代といった問題を順次にとりあげてゆく。

そして禅の日常性の構造、公案の意義、禅的人間像、実践規範と順次とりあげる。禅と文化、禅と現代においては、広く禅と芸術、西欧思想と禅との関係等についても触れるつもりである。

〔参考書〕 水野・柴田編『宗教学ハンドブック』  
(世界書院)

## 宗 教 学 II

小 坂 機 融

本講座は宗教学 I を基調とし、特定宗教への関心の有無にかかわらず、宗教的問いがすべてのひとに生起してくる根底について考究し、これへの真の応答の在りようを宗教の歴史的諸形態の中に探り、更に禅の簡明直截な修証に焦点をあて、近年特にその歪みが顕在化してきた現代文明社会において、これがいかなる意味をもつかを自然・人間・社会等の諸事象に照らして問うていく。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
『宗教学 II』(更生社)

## 宗 教 学 II

佐々木 章 格

すでに宗教学 I において、宗教の概説、インド・中国・日本の仏教を学んだことと思う。この宗教学 II においては、さらにすすんで日本文化にも多大の影響を及ぼしている「禅」について探究する。

禅は理論も知らなければならないが、同時に生活の上で実践できなければ意味がない。今日、一般の人々が仏教とりわけ禅に寄せる関心の高さには驚かされるものがある。

ここでは、「禅」の概要および中国・日本における禅宗の歴史と変遷を、その時代時代の禅者を通して考えながら学び、思想的理解を深める。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学 II』(更生社)

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

## 宗 教 学 II

永 井 政 之

宗教学 I のあとを承け「禅」について、その歴史や思想を学びつつ、ますます複雑化する現代に宗教、就中、禅はどのような面で可能性を持ちうるのであろうか。学生諸君とともに考えてみたい。

〔教科書〕 『宗教学 II』(更生社) ¥1,950

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

## 哲 学

川 戸 好 武・小宮山 隆  
片 桐 茂 博

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。



## 論 理 学

片 桐 茂 博・戸 田 洋 樹  
木 原 英 逸

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考するべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

## 倫 理 学

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

## 倫 理 学

松 田 文 雄

本講座は東洋倫理として開講し、インド・中国・日本の倫理を概説する。

〔参考書〕随時指示する。

## 文 学

忠 鉢 仁

『徒然草』作者・兼好法師の人間理解のありよう、興味関心のありようを探ることにより、現代の我々の生態に眼を向けていくことにしたい。教科書は、『徒然草』全文が収録されているものならば、どのようなものでも可。

## 文 学

田 澤 英 藏

日本の近代文学の作品を読む。読む過程で、文学に関する事項（文芸思潮、文芸理念、ジャンルなど）について解説する。

〔教科書〕授業時に指示する。

## 社 会 分 野

## 法 学

梅 木 崇

一般教養科目としての法学であるが、法学部の学生を対象とするため、わが国の法制度全般にわたって概説する。したがって、「法とは何か」といった高度に抽象的・思弁的な内容はとりあつかわない。また、法の歴史についても必要な限り言及するにとどめる。要するに、現代の法制度、それに則する法現象を対象とするということである。できるかぎり多くの具体的な例をひいて、理解しやすいように努めるつもりである。現在のところ、次のような内容を予定している。

(1)犯罪と法 (2)財産関係と法 (3)労働と法 (4)家族関係と法 (5)法の適用と裁判 (6)法の解釈

〔教科書〕山口・大久保編『法学要説』（芦書房）

## 政 治 学

福 岡 政 行

前期は政治の理論的研究として、政治学の行動科学的分析を中心に、政治のシステム・文化・社会化の視点で政治の動態分析を行う。政治が人間行動の集団現象であることから、現実政治の分析には、どうしても行動的視座が必要である。

戦後日本の政党政治・選挙について、現状分析を行い、今日の日本の政権交代が、何が原因で、スムーズに行われないのか。政党システム・選挙・圧力団体・官僚制を中心に講義してゆく。

〔教科書〕福岡政行著『現代日本の政党政治』

（東洋経済）¥1,500

## 社会学

長谷部 八 朗

本講義は、私たちの営んでいる社会生活を、個人、集団（全体）社会といった各分析単位に沿って理解することをめざしている。

講義の大筋は、前期で、こうした分析に必要な基本用語、概念の解説を行い、後期では、これら基礎知識を現実の諸問題を通して具体的に検討する予定である。

〔教科書〕『新版社会学概論』（学文社）

## 社会学

橋 爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（新版）（学文社）

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』（学文社）

## 統計学

飯 塚 仁之助

第Ⅰ編 社会統計学の発達課程

第Ⅱ編 社会統計理論

第1章 社会統計学の意義、第2章 統計集団、  
第3章 大数の法則、第4章 大量観察法

第Ⅲ編 統計分析法

第1章 記述統計

第1節 平均、第2節 散布度、第3節 歪度、

第4節 指数、第5節 相関

第2章 推測統計

## 文化人類学

加 治 明

文化人類学とは人類の文化を研究する学問である。ただしこの場合の文化とは広い意味で使われ、人類の生活様式を指し、その範囲は経済・社会・宗教・芸術・道徳

等人間生活のさまざまな分野に及んでいる。いっぽう、この学問の特色は、今まで世界各地の「未開」民族の文化や社会を実地に調査、研究し、さらに比較研究等を通して理論化してきたことだが、近年は次第に文明社会も取り扱うようになり、現在では人類全体の文化や社会を研究対象にしていると言える。講義では、人類学の目的と範囲、経済形態、社会組織、呪術と宗教、文化の動態等について解説するが、学生諸君がその内容を身近なものとして受け入れられるよう努力していきたい。

〔教科書〕吉田禎吾・寺田和夫著『人類学入門』

（東京大学出版会）¥1,700

## 文化人類学

蒲 原 大 作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粋な形で保っていることの多い未開民族（未開社会）が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』

（有斐閣双書）

## 文化人類学

村 武 慶

私達は、ややもすると、自分達の生活様式、家族・親族の形態、自分達の宗教を最高のものと思いがちであるが、必ずしもそうではないことを、いろいろな民族、社会を比較して学んでいきたい。

〔教科書〕『文化人類学を学ぶ』（有斐閣）¥1,100

〔参考書〕『文化人類学』（有斐閣双書）

## 経済学

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、現代経済学の成果をも考慮して、マクロ経済学の解説を行なう。

〔教科書〕J. ペン著、小野俊夫訳『現代経済学』

〔第2版〕（ダイヤモンド社）

# 自然分野

## 自然科学概論

篠原正雄

「人間はいかにして宇宙の中に生まれたか」

20世紀前半の自然科学は、原子が素粒子から成ることや、我々の銀河系の外にも無数の銀河のあることを発見した。今日では、素粒子を構成するクォーク粒子の性質が研究され、我々の宇宙の外の無数の宇宙につき議論されている。また、分子生物学や太陽系探査の成果を加えて、地球史・生物史の認識も深まった。

この講義では、「宇宙人はいるか?」という問いを携えながら、「素粒子の中から宇宙の外まで」、「宇宙の誕生から人類の出現まで」、現代の自然科学が招く自然像を、研究史を交えながら展開する。

〔教科書〕八杉龍一『図解 科学の歴史』（東京教学社）  
¥1,700

## 自然科学概論

小島道也

広範囲な自然科学の分野のうち前期では特に食物にしぼってその自然科学的な面だけでなく経済とのかかわりについても講義する。

後期は土壌を材料として自然科学的思考法を理解させようとする。

〔教科書〕小島道也・伊東 正編著『食べ物の科学』（日本放送出版協会）¥750  
山根一郎・大向信平著『農業にとって土とは何か』（農山漁村文化協会）¥1,000

## 地学

宇和川正人

氣、水、地および生物圏を通じて人類とのかかわりあいを主軸に解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

## 地学

長沼信夫

地球の歴史の上で、現代に最も近い背景となる新生代第四紀時代の自然環境の変遷を中心テーマとして講義す

る。その際には学生諸君の身近なところにある地学的素材も選び、人間生活とのかかわり合いを考慮しながら進めていく予定である。

〔教科書〕『自然環境の生いたち』（朝倉書店）  
¥2,000

## 地学

漆原和子

前期は、主として日本列島の生いたちについて説明する。後期は、最も新しい地質時代である第四紀において人類がどのように自然環境の変遷に対応してきたかについて説明する。

〔教科書〕『日本の地形』（岩波新書）  
〔参考書〕『自然環境の生いたち—第四紀と現在』（朝倉書店）

## 心理学

板津裕己

心理学は、人間の諸行動を科学的に研究することによって、「人間とは何か」ひいては「自分自身」を明らかにしていこうとする学問である。本講義では、まず最初に心理学研究の輪郭・歴史について述べ、その後動機づけ・パーソナリティ・社会的行動などいくつかの研究領域について話を進めていくつもりである。

〔教科書〕中村昭之編著『心理学概説』（八千代出版）  
¥1,500

## 心理学

高橋良博

心理学を初めて学ぶ者を対象として、なるべく日常的な問題に即しながら、心理学の主要な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらう事を目的に講義を進めてゆく予定である。

また、講義の中で随時供覧実験などを折り込みながら心理学研究の雰囲気も伝えたい。

〔教科書〕中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）  
¥1,500

## 心理学

茅原正

心理学は、人は何をいかに感じ、考え、行なうかということ、すなわち、人間の心とあらゆる行動の原理法則を明らかにする科学である。人間は本来、自然的存在であると同時に社会的・文化的な存在であり、心理学は、

まさに人間活動の全領域を研究の対象とするものである。

本講では、現代心理学の主要な理論を平易に説明し、学生諸君が、複雑なる人間関係にある自己や他人を理解するための指針を得るよう、ともに学んでゆきたい。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

## コンピュータ概論

三好重明

コンピュータについての基礎的事項を概説してから、実際にプログラムを組んで、コンピュータに何をさせることができるかを学びたい。プログラム言語としては、BASIC を用いる予定であるが、時間の余裕があればさらにPascalによってプログラムを組んで、コンパイラに関する知識も習得したい。

〔教科書〕高作義明著『入門BASIC』（アスキー出版局）

¥1,500

## 生物学

清水善和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起源から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦糸に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横糸に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれて遺伝子組換え、脳死、代理出産などの現代的な問題についても言及する。

〔教科書・参考書〕なし

# 保健体育科目（共通）

## 保健体育理論

大石 武士

体育概念及び保健的な面について。

## 保健体育理論（再クラス）

長濱 友雄

科学技術の発達と共に人間はだんだんと身体を動かすことが少なくなっている。医学の進歩とともに寿命も大巾にのびて高齢化社会をむかえている現在、我々はそれにどのように対応し、健康で有意義な生活を送るために体力を高めなければならないと考えるが、そのための方策について講義を進める。

## 保健体育理論

田中 佳孝

日常生活及びスポーツ・レクリエーション時に於ける傷害の救急処置法。並びに健康な生活をする為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を行なう。

## 保健体育理論（再クラス）

森本 葵

### 体力づくり

〈若年層における体力づくりの必要性〉

〈体力のメカニズム〉

〈体力づくりの方法〉

〈体力づくりにかかわる疲労の問題〉

〈疲労の判定法〉

### オリンピックゲーム

〈歴史〉

〈問題点〉

〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

## 保健体育理論

宮沢 栄作

心身両面からの健康の条件と、それにともなう身体運動の意義について、併せてスポーツと体育の概念的ことごとらについてふれていく。

## 随 意 科 目 (共通)

### 比較思想特講

窪 徳 忠

まず道教について簡単に説明したのち、中国の現行文化、とくにその信仰・習俗のうちから道教に関連の深いと思われるものを選んで、日本における信仰・習俗との比較を扱ってみたい。地域的には沖縄や奄美地方が中心となるが、その他の地方にも言及する。なお、必要に応じてスライドを使用して、一層の理解を深める予定である。

〔参考書〕窪『中国文化と南島』（第一書房）¥2,500

### ドイツ語 F

吾 妻 雄次郎

主として2年次までドイツ語を履修した学生を対象に、ナチ支配下の短編小説や天皇問題及びリクルート問題に対する西ドイツ紙誌の反応を読みとることに依り、ドイツ的思考の一端に触れたい。同時に文法の包括的習得に努める。

### ドイツ語 F L L (初級)

松 本 洋 子

ビデオ教材を用いて、まず、生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

### ドイツ語 F L L (中級)

野 島 利 彰

週一回という限られた時間内で、L Lを通して語学を学ぶ方法としては基本的には多数の文章の記憶以外にはない。耳から音を聴き、記憶し、そしてそれを口から出す。こうした機械的な——時には無味乾燥な——練習の場としてこの授業を活用して行きたい。

なお受講者には前年度にF L L (初級)をとった者を望む。

〔教科書・参考書〕教場で指示する。

### フランス語 F

加 藤 節 子

やさしいテキストを使ってフランス文学史を読む。17世紀から始めて19世紀頃までの文学とその社会背景を概観していく予定である。時間があれば大作家や詩人たちの作品の抜粋を読んで作品鑑賞も併せてやってゆきたい。  
〔教科書〕プリント

### フランス語 F L L (初級)

加 藤 節 子

ビデオ教材やカセット・テープを利用して聞きとり練習や、基本文型の練習をくり返し行って日常会話に慣れるようにします。一年間続けてゆく意欲のあるものの受講を希望します。テキストは教場で指示します。

### フランス語 F L L (初級)

M. マ ル タ ン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕『Avec Plaisir』Emission 1より。

### フランス語 F L L (中級)

M. マ ル タ ン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『Entrée Libre 1』

## 中国語 F

釜屋 修

すでに習得した中国語能力をいかしてより高く、より正確な中国語への理解力を高めるための場である。短編小説、評論文などを用いて文章解析力、朗読能力の向上に焦点をあてるとともに、簡単な日常会話力も身につけられるようにしたい。欠席しない人を求む。

〔教科書〕開講後に受講生諸君の希望も聞き選定する。

〔参考書〕その都度指示する。

## 中国語 F L L (初級)

釜屋 修

中国語を一年間履修したもの、あるいはそれと同等の学力を有するものを対象とし、日常初級会話をビデオ教材中心に学習する。

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕開講後指示する。

## 中国語 F L L (中級)

羅 漾 明

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

## スペイン語 F

佐藤 玖美子

今世紀スペインの有名な歴史家であり社会学者であるアメリコ・カストロの著書“イベロアメリカ”の講読を行う。学生諸君が1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、中南米諸国がたどってきた苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、また検討を加えることを試みたい。

〔教科書〕プリント

## スペイン語 F L L (初級)

M. アルマラス

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

## スペイン語 F L L (中級)

M. アルマラス

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

## ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの — 文学新聞の抜粋、諷刺漫画(クロコディル)、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげていきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

## ロシア語 F L L (初級)

野村 タチアナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕教場にて指示。

## ロシア語 F L L (中級)

野村 タチアナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独得な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕教場にて指示。

# 法律学科

## 基礎教育科目

法学概論 (佐々木 信) .....	48
法学概論 (大久保 治男) .....	48

## 専門教育科目

1 年次必修科目	
憲 法 (齊藤 寿) .....	49
民 法 I (青野 博之) .....	49
1 年次選択科目	
民法IV(1) (青山 尚史) .....	49
2 年次必修科目	
行政法 I (齊藤 寿) .....	49
行政法 I (梅木 崇) .....	49
刑 法 I (山口 邦夫) .....	50
刑 法 I (松村 格) .....	50
民法II(1) (鶴井 俊吉) .....	50
民法III(1) (河野 弘矩) .....	50
商 法 I (荒木 正孝) .....	50
商 法 I (島原 宏明) .....	50
国際法 I (桜井 光堂) .....	50
2 年次選択科目	
政治学原論 (上條 末夫) .....	50
マス・コミュニケーション論 (相田 敏彦) .....	51
政治史 (寺崎 修) .....	51
経済原論 (浅野 克巳) .....	51
裁判法 (杉浦 智紹) .....	51
外国法 (英米法) (佐々木 信) .....	51
外国法 (独法) (山口 邦夫) .....	51
外国法 (仏法) (上井 長久) .....	51
外国法 (社会主義法) (土岐 茂) .....	52
法思想史 (金刺 亮介) .....	52
3 年次必修科目	
刑 法 II (山口 邦夫) .....	52
刑 法 II (松村 格) .....	52
商 法 II (関口 雅夫) .....	52
商 法 II (山田 泰彦) .....	52
民事訴訟法 I (杉浦 智紹) .....	52
3 年次選択科目	
法社会学 (小林 弘人) .....	53
行政学 (福田 耕治) .....	53
財政学 (里中 恆志) .....	53
日本法制史 (大久保 治男) .....	53
西洋法制史 (佐々木 信) .....	53
国際関係論 (首藤 素子) .....	53
経済政策 (森岡 仁) .....	54
刑事政策 (齊藤 誠二) .....	54

比較憲法 (西 修) .....	54
行政法 II (齊藤 寿) .....	54
民法II(2) (鶴井 俊吉) .....	54
民法III(2) (青野 博之) .....	54
地方自治法 (梅木 崇) .....	55
経済法 (江上 勲) .....	55
労働法 (佐藤 時次郎) .....	55
税法 (金子 昇平) .....	55
社会保障法 (佐藤 時次郎) .....	55
外交史 (首藤 素子) .....	55
国際法 II (桜井 光堂) .....	55
国際私法 (笠原 俊宏) .....	56
時事英語 (山下 高明) .....	56
3・4 年次選択科目	
外書講読 (英) (島原 宏明) .....	56
外書講読 (英) (金子 昇平) .....	56
外書講読 (独) (松村 格) .....	56
外書講読 (仏) (荒木 正孝) .....	56
外書講読 (中) (3 選) (江 英居) .....	56
外書講読 (中) (4 選) (江 英居) .....	56
外書講読 (ス) (佐藤 玖美子) .....	57
4 年次必修科目	
刑事訴訟法 (齊藤 誠二) .....	57
刑事訴訟法 (加藤 克佳) .....	57
4 年次選択科目	
法哲学 (矢崎 光圀) .....	57
民法IV(2) (青山 尚史) .....	57
倒産法 (雨宮 眞也) .....	58
商法 III (山田 泰彦) .....	58
知的財産権法 (盛岡 一夫) .....	58
民事訴訟法 II (榎 善夫) .....	58
政治思想史 (小林 正敏) .....	58



# 法 律 学 科

## 基礎教育科目

### 法 学 概 論

佐々木 信

法学部一年次生にとって通常要求される今日の法学に関する基礎知識、基礎理論の概略、および、これらに関連する今日の多様な法的諸問題の考察について必要と考えられる法学方法論の入門的概説を主内容とする。同年次および次年次以降の学習にとって必要な法学学習の精神的準備度の向上が狙いである。

〔教科書〕佐々木 信『法学』〔上〕（成文堂）

〔参考書〕講義内容各項目について適宜指示する。

### 法 学 概 論

大久保 治 男

法学部で学んでいこうとしている諸君に必要な最少限の基礎的概念や理論を概説する。法とは何か、法の目的、法の根拠、法源、法の種類、法の解釈、法の効力、法と国家などの総論と民法、刑法等全体を鳥瞰し2年次以降の法学の各講義がスムーズに受け入れられるべく入門的ガイドを講ずる各論とよりなる。現代社会の諸特質もふまえ、社会が繁栄し、各個人と全体との調和のために最大公約数としての法秩序をいかに合目的に運用していかねばならないかを多角的に分析し、これらの背景になっている法史的、法哲学的、法社会学的問題にふれたり、アップ、ソー、デイトの事例にまで具体的に展開して受講生に法学に対する興味と意欲を起させるよう配慮する。

〔教科書〕大久保治男著『法学概説』（芦書房）

〔参考書〕水辺編・大久保他共著『演習ノート法学』（法学書院）

大久保治男著『家族関係』（芦書房）

# 専 門 教 育 科 目

## 1 年次必修科目

### 憲 法

齊 藤 寿

「基本的人権論」と「統治機構論」を中心に、学説・判例・事例研究等を通して、体系化した講義を続け、基本的・強靱な思考力と科学的な創造力を養いたいと思う。前者の「基本的人権論」では、自由権・平等権・人身保護権・救済権・参政権・社会権などについて講義し、後者の「統治機構論」では、国会・内閣・裁判所・自治体・財政などについて講義する。

〔教科書〕『憲法原理の分析と展開』、『憲法論理の展開』、『憲法要論』など、拙著の中から、講義の際、選択・指示する。

### 民 法 I

青 野 博 之

民法典のうちの第1編「総則」（第1条～第174条の2）を、本講義の対象とする。いわゆる「民法総則」である。民法Ⅱ(1)、Ⅱ(2)、Ⅲ(1)、Ⅲ(2)より抽象的でわかりにくい。「民法総則」が抽象度の高い分野であるためであり、条文を読んだだけでは（条文も読まないようでは、論外であるが）何が書いてあるのかわからないためである。受講生にとっても、講義をする私にとっても、たいへんなどころである。少しでもわかりやすく、を努力目標にして、講義する。受講生も、問題意識をもって、来てほしい。受講生からの質問は大歓迎である。

〔教科書〕山田卓生ほか『民法Ⅰ — 総則』（有斐閣）

## 1 年次選択科目

### 民 法 IV (1)

青 山 尚 史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

## 2 年次必修科目

### 行 政 法 I

齊 藤 寿

現代国家においては、国民と行政権のかかわり合いが増大しつつある。そこで、行政主体（行政庁）と行政客体（私人）との間の権利義務関係を支配する法理・法原則を究明することは、重要にしてかつ興味深い研究対象の一つになっている。こうした観点から、本講義は、生きた行政法を重視しながら、つぎの諸問題を考察する。

(1)行政と行政法の意義 (2)行政法の基本原理 (3)行政法の法源と効力 (4)行政法の法律関係 (5)行政行為 (6)行政裁量 (7)行政立法 (8)行政強制 (9)行政罰 (10)行政上の損害賠償および損失補償 (11)行政争訟  
〔教科書〕拙著の中から、開講の際、選択・指示する。

### 行 政 法 I

梅 木 崇

行政法学の基礎理論を具体的事例を通じて理解させることを目的とする。当然のことながら、最高裁判所の判例を中心とする、諸判例を素材とする解説を行う。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』（啓正社）

## 刑法 I

山口 邦夫

ドイツ刑法を継受した、わが国の刑法を理解するために、その歴史的背景を考慮しながら講義をすすめた。また、フランス刑法の流れをくむ旧刑法をも参考にしながら、刑法総論の解釈学を行う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕山口邦夫『一九世紀ドイツ刑法学研究』

(八千代出版)

## 刑法 I

松村 格

刑法と刑法学のシステマティッシュな理解を出発点として、刑法学派の流れを垣間みながら刑法と刑罰の目的・機能を考えてみる。次いで犯罪論を勉強する。まず初めに罪刑法定主義や責任主義や謙抑主義といった刑法の大原則をしっかりと把握してから、行為論、構成要件論、違法論、責任論、未遂論、共犯論を学習する。

〔教科書〕松村 格『日本刑法(総則講義案)』

(八千代出版)

〔参考書〕講義にて指示する。

## 民法 II (1)

鶴井 俊吉

本講義は、民法典のうち第二編「物権」を対象とする。物権は、元来物資の利用を規律する制度であるが、資本主義の発達とともに、物資の取引が経済組織の中心になるにしたがい、物権法も物を取引の客体とする法理が重要なものになっている。講義では、物権変動を中心に、不動産利用権、物権の支配の秩序維持についての制度がその内容となる。具体的な事例などをあげて、できるかぎりわかりやすく解説するので、物権法の基礎的な知識を身につけてもらいたい。

〔教科書〕遠藤・川井・原島他編『民法(2)物権』

(有斐閣双書) ¥1,400

## 民法 III (1)

河野 弘矩

本講義は、民法第三編第一章(債権総論)を対象とする。

〔教科書・参考書〕未定。

## 商法 I

荒木 正孝

本講義は商法総則および会社法を対象として行うが、とくに現代資本主義社会において我々の経済生活に大きな影響を与えている株式会社制度について、その生成、機能、構造等その私的側面を規制する株式会社法に重点を置き、判例その他の具体例を挙げて解説したい。

〔教科書〕荒木正孝『商法講義(総則・会社法)』

(成文堂)

## 商法 I

島原 宏明

現代資本主義社会において最も代表的な企業形態たる株式会社の制度を中心として、商法総則ならびに会社法における様々な論点を採り上げ体系的に考察していく。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

## 国際法 I

桜井 光堂

国際法の全体系の中で、二年次においては国際社会における法としての国際法の基礎構造から説きすすんで、平和的国際関係における法の領域(平時国際法)を概観しようとする。できる限り現実的具体的な事例を多く引用することによって、抽象的な法理論としてでなくて、実際に生きてはたらいっている法として理解してもらえよう講義してゆくつもりである。

〔教科書〕桜井光堂著『改訂 国際法』(有信堂)

## 2 年次 選択科目

### 政治学原論

上 條 末 夫

国家および権力を中心として、政治の本質を解明することに主眼をおき、随時、時事問題も取り上げて、生きた政治学を講義したい。

〔教科書〕上條末夫ほか『基礎政治学』(北樹出版)

## マス・コミュニケーション論

相田 敏彦

新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等のマス・メディアは、さまざまな形で人々の生活に浸透し、大きな影響力をふるっている。人々はマス・メディアに接触するなかで、欲求を充足し、また、行動上・心理上大きくメディアに依存している。

「送り手」から「受け手」にいたるマス・コミュニケーションのプロセス、メディアの「効果」・影響、人々によるメディアの「利用と充足」等に関して検討する。  
〔参考書〕竹内郁郎・児島和人編『現代マス・コミュニケーション論』（有斐閣）¥3,700

## 政治史

寺崎 修

近代日本政治史上の諸事件を素材に、近代日本の形成過程をわかりやすく説明する。これまで不明とされてきた問題や、今日、比較的軽視されている問題についても言及するつもりである。  
〔教科書〕開講時に指示する。

## 経済原論

浅野 克巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。

- I ミクロ経済学の理論
    - 1. 消費者行動の理論
    - 2. 企業行動の理論
    - 3. 価格決定
  - II マクロ経済学の理論
    - 1. 経済循環と国民所得の概念
    - 2. 国民所得の決定
    - 3. 経済の変動と成長
  - III 現代経済学の課題と方向
  - IV 経済学の生成過程
- 〔教科書・参考書〕最初の授業で説明します。

## 裁判法

杉浦 智紹

本年度の講義は、現代の裁判制度及びそのありうるべき姿を学生諸君が適格に把握できるように進める予定である。講義の内容は、I. 裁判所の機構論、裁判官論、弁護士制度、公証人制度、検察官論、並びに法曹教育問題、II. 裁判の本質論、裁判の審理と促進に関する問題、各種裁判の手続等について概要を述べた上、問題点を指摘しながら、出来るだけ関心がもてるように、また三年

次以降の訴訟法を勉強するための基礎が形成できるように努力をしたい。

〔教科書〕兼子 一・竹下守夫『裁判法』（新版）  
（有斐閣）

## 外国法（英米法）

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)わが国と英米法 (2)英米法の諸特質 (3)英米法の構造と法源 (4)現代英米法研究諸傾向管見。なお、本講では英米法体系Anglo-American System of Lawあるいはコモン・ロー体系Common Law System と称される法文化の精神と技術の基礎的な理解に力点をおくとともに、これを通じていわゆる比較法学の基本的な諸問題の省察にすこしでもすすんでいきたいと思う。

〔教科書〕佐々木 信『イギリス法学講義』（上）  
（成文堂）

〔参考書〕講義において適宜指示する。

## 外国法（独法）

山口 邦夫

この講義の目的は、単なる外国法のひとつとしてのドイツ法を説くのではなく、また比較法のために一国法としてのドイツ法を説くでもない。それは、わが国が明治時代以降、いくつかのヨーロッパの法を継受した歴史的事実を基礎に、わが国の諸法律および法思想に多大なる影響を与えた外国法のひとつとしてのドイツ法を講義することにある。したがって、おもに19世紀以降のドイツ法と日本の法律との関連を、「法学入門」風に講義することとなる。

前期は、憲法をはじめとするおもな法典についての概略を説明し、後期には、それらの背景となった法思想を、著名な法思想家をとりあげながら講義を進めたい。

受講者の条件として、一年次においてドイツ語を履修したか、あるいはドイツ語に興味をもって、みずから学ぶ意欲のあることが望ましい。

## 外国法（仏法）

上井 長久

一般に外国法を学ぶことは、外国の法思想・法制度・法原理の意義、機能及びその歴史的、社会的背景などを探ることであり、同時にそれらを通して外国法に固有の考え方や見方を会得することである。外国法の学習はまた、わが国の法の理解にも役立つ。とくに、フランス法はわが国の法に対して過去においても現在においても大きな影響を及ぼしており、わが国の法を理解する上でも重要である。

本講は、主として、フランス私法を理解する上で必要な、フランス古法、革命期の法、法典編纂及びその後の変遷、自然法、権利と法、司法制度など基礎的問題を解明してゆく。適宜、わが国の法との関連もみてゆく。

〔教科書〕開講のときに、プリントを配付する。

〔参考書〕開講のときに掲げる。

## 外国法（社会主義法）

土岐 茂

今年、社会主義国のなかでとくに中国に着目して講義を行う。テーマは現行法として機能している法体系および法制度の内容をどう理解し、評価するかである。

今日の中国は経済改革の動向にともなって、法体系・法制度は変化の途上にある。さかんに立法活動が展開されるとともに法規の改正もまたひんばんである。したがって諸法律の内容を見るだけでなく、具体的適用にあたっての細則や政策にも留意しなければならない。また、現実の社会関係は法律の内容どおりに定着したとは言えない側面もある。実際上の生活や社会のあり方にも注目して問題を見ていかねばならないであろう。

〔参考書〕 薫 成美編・西村幸次郎監訳『中国憲法概論』

（成文堂）¥3,000

浅井 敦『中国憲法の論点』（法律文化社）

¥2,000

## 法思想史

金刺 亮介

法に関する思想の歴史は、一面、秩序に関する思想の歴史であると言っても過言ではなからう。本講義では、秩序と秩序に関わる法のあり方についての思惟の枠組みに焦点をあてながら、ギリシアの思想家から、できればドイツ観念論の時代あたりまでを、対象にしていきたいと思っている。

〔参考書〕 三島淑臣著『現代法律学講座 3 法思想史』

（青林書院新社）

## 3 年次必修科目

### 刑法Ⅱ

山口 邦夫

法益による犯罪の分類が、現在、通説的な説明方法となっているが、各犯罪類型のもつ歴史的背景を加味しつつ、その犯罪類型の論理構造を解明しながら講義をす

めたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

### 刑法Ⅱ

松村 格

今年度は、個人的法益に対する罪について講義する。時間が余るようならば国家的法益に対する罪について講義する。

〔教科書〕松村 格『日本刑法（各則講義案）』

（八千代出版）

〔参考書〕講義で随時指示する。

### 商法Ⅱ

関口 雅夫

商法Ⅱは、商法学のうち、「商行為法」および「手形小切手法」を、主要な対象としている。

本講座は、平易は旨とし、商法Ⅱを、論理体系的にかつ判例を通じて実践的に理解し、その基礎的知識の修得を目的とする。

〔教科書〕野津 務『商法講義』（商行為法）

（中央大学生協出版局刊）

木内宜彦『手形法小切手法（企業法学Ⅲ）』

（勁草書房）

### 商法Ⅱ

山田 泰彦

手形法を中心に講義します。技術的性格の強い手形法は、理論構成が精緻をきわめていますが、できるかぎり基本を踏まえて、重要問題については学説の展開も紹介しながら講義する予定です。場合によっては、こちらからも質問をしますので、積極的に答えてくれることを期待します。

〔教科書〕倉沢編『手形法・小切手法 100講』

（学陽書房）

### 民事訴訟法Ⅰ

杉浦 智紹

「訴訟」は訴訟法と実体法を総合する場であり、民事訴訟法学は「民事訴訟」をその学問対象とする。訴訟構造は、總て審査手続の範型をなすものであるから、学生諸君は等しく研究することが必要であると思う。

講義は、判決手続を中心に、民事訴訟の基礎理論からはじめ、訴訟主体論、訴訟客体論、訴訟行為論、第一審訴訟手続論及び裁判論へと進める予定である。

〔教科書〕杉浦智紹『民事訴訟法』（鳳舎）

〔参考書〕開講時に指示する。

### 3 年次選択科目

#### 法社会学

小林 弘人

前期は、法社会学の基礎理論（学説の説明が中心になる）の解説、後期は、法と社会の関連について、具体的なテーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕及川 伸著『法社会学入門』（新版）  
（法律文化社）

〔参考書〕六本佳平著『法社会学』（有斐閣）

#### 行政学

福田 耕治

現代国家は「行政国家」とあるといわれている。それは行政の量的拡大と質的变化、特に立法権に対する行政権の優越を特徴とする。そこには官僚制をめぐる諸問題、テクノクラートの支配による民主主義や代議制の危機という問題が横たわっている。このような行政現象を的確に把握する観点から、(1)行政学の課題と方法、行政学発達の歴史、(2)現代行政学の動向、官僚制と行政責任論、(3)国際行政、国内行政と国際行政の関係などを中心として取り上げる予定である。また、わが国が当面している行政上の諸問題にも注意を払いながら基本問題に焦点を絞り、理論と実際の両面から現代行政にアプローチしてみたい。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

#### 財政学

里中 恆志

経済生活のなかで公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこには市場経済原理とは異なる原理が機能する。国民が財政意志の形式に参加する方法は民主的な手続をとおしてであるから、適切な財政政策の実現のためには国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。このような観点から公共収入政策、公共支出政策の原理および基準を考察し、現実の財政問題に対する判断力を

養う。

〔教科書〕授業始めに指示する。

#### 日本法制史

大久保 治 男

我が国における法律文化の変遷の流れを上古時代より近代まで概説する。基本法、刑事法、財産法、家族法等の各分野につき幅広くふれ、さらに我々の意識や興味や風習・言語等の中に残る法制史的事柄にまで展開したい。教授方法は講義の他にOHP、スライド、ビデオ等視聴覚的教材やシンポジウム方式もとり入れ楽しい法制史にして学生の研究意欲を起こさせるよう工夫する。温故知新、永劫回帰なのでもあるから我々の祖先の法律文化の沈積物を発掘、探求して価値づける。世は「歴史ブーム」である。時代考証にも役立ち、多くの話題を受講生に提供する一味ちがうユニークな法制史にしたい。学問探求には史的考察が必須前提でもあろう。

〔教科書〕大久保治男著『日本法制史概説』（芦書房）

〔参考書〕大久保治男著『大江戸刑事録』（六法出版社）

#### 西洋法制史

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)いわゆる「西洋法制史」学の形成・その学問的性格について、(2)ヨーロッパの法文化における諸要素について、(3)ヨーロッパにおける封建法の形成過程について、(4)ヨーロッパ中世における法思想の理解について。

歴史は現代の理解に資するとする考えもあることであるので、上記についてはとくに今日における理解を紹介することに力を入れたい。西洋法制史の分野では、今のところ、企画はあるものの、適当な教科書はないので、学生諸君に入手可能な史料を教材とする予定である。

#### 国際関係論

首藤 素子

最初に、20世紀になってから欧米諸国で関心の高まってきた国際関係研究の主要な研究史を概説する。

以後第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

〔参考書〕細谷千博・臼井久和編『国際政治の世界』  
〔増補改訂版〕（有信堂）¥2,800

## 経済政策

森岡 仁

経済政策を理解するには経済の理論的知識を必要とするが、ここでは法学部の学生諸君にも十分理解しうるように講義を進める。内容は以下のとおりである。

- I. 現代経済と経済政策 II. 経済政策学の発展  
III. 現代経済政策の課題 IV. 経済の成長政策  
V. 経済の安定政策 VI. 産業組織政策  
VII. 社会均衡化政策 VIII. 経済政策と人口政策

〔教科書〕森岡（他）『現代経済政策』（千倉書房）  
¥2,300

## 刑事政策

齊藤 誠二

これまで、刑事政策は、犯罪の原因を生物学的・心理学的・社会的に分析する犯罪原因論と、犯罪者をどう処遇するのか・社会から犯罪をなくすためにはどうしたらよいか、ということを考える犯罪対策論からなる、といわれていた。ところが、1970年代から、ヨーロッパやアメリカでは、ふつう、この2つのほかに、法の執行の過程ないしは刑事司法のプロセスというものを分析することがかわえられるようになってきている。これは、国際的に、刑事政策を展開するには、どうしても、どういうプロセスで、犯罪者というレッテルを貼っていくのか、という分析をしなければならないと考えられたためである。ここでも、こういう方向もくわえながら、わが国の刑事政策が当面する多くの問題を語っていく。

〔教科書〕齊藤誠二『刑事政策Ⅰ』（多賀出版）（前期）  
齊藤 他『刑事政策入門』（有斐閣）（後期）

〔参考書〕森下 忠『刑事政策大綱入門』（成文堂）

## 比較憲法

西 修

比較憲法の研究は、世界各国憲法の動向を知り、かつ日本国憲法の意義、問題点を知るという点で、重要な意義を有する。講義は、英、米、仏、独、ソ、中の主要諸国の憲法体制ならびに主要項目（平和主義、議会制度等）の比較検討を中心に行なう予定である。

〔教科書〕西 修ほか『各国憲法論』（学陽書房）  
¥1,600

〔教科書〕宮沢俊義編『各国憲法集』（岩波文庫）  
¥550

西 修『各国憲法制度の比較研究』  
（成文堂）¥3,800

## 行政法Ⅱ

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

## 民法Ⅱ(2)

鶴井 俊吉

民法Ⅱ(2)は、担保物権法を対象とする。担保物権法は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性はますます増大している。今日、財産法部門で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、そして著しく変動している。

講義では、民法典の第二編「物権」の留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等がその内容となる。物的担保制度の基礎的原理については、できるかぎりわかりやすく、具体的事例などをあげて解説する。

〔教科書〕『新版 民法(3) 担保物権』（有斐閣双書）

## 民法Ⅲ(2)

青野 博之

いわゆる債権各論について、講義する。売買、賃貸借、請負といった契約上のトラブル、事故にあった場合の損害賠償がどのようなものか、について受講生自身が考えるきっかけにはなると思う。受講生の活発な質問を期待する。

教科書は下記のものを使う予定であるが、ほかに自分で気に入ったものがあればそれでもよい。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法Ⅱ 債権法』  
（一粒社）

または藤岡康宏ほか著『民法Ⅳ 債権各論』  
（有斐閣）

## 地方自治法

梅 木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。  
〔教科書・参考書〕 開講にあたって指示する。

## 経済法

江 上 勲

資本主義が高度化した段階の国民経済では、極度に多様化・分業化した機能を持つ経済主体間の調和は、古典的自由放任主義の経済政策によっては自動的に達成しがたくなる。経済法は、このような経済社会のなかで基本的に市場経済を維持しながら経済の流れに必要なに応じて国家が介入して全体の調和的発展をはかるための諸種の法から成る。本講座は、かかる経済法の中核をなす独占禁止法の意義を明らかにしたのち、その概要を説明する。講義に当っては基本的事項の理解に努める。  
〔教科書〕 江上 勲『経済法・独占禁止法概論』  
(税務経理協会) ¥3,000

## 労働法

佐 藤 時次郎

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に解説を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて新しい動向等の把握に遺憾なからしめたいと考える。  
〔教科書〕 佐藤時次郎・原 慎一・志賀直人共著  
『社会生活における労働ルール』(蒼文社)

## 税法

金 子 昇 平

租税法の基礎的原理および租税法体系についての法の仕組を明らかにすることにより、個別的、具体的な租税事件を検討しながら“あるべき租税法”とは何か、を解明していきたい。  
〔教科書〕 金子 宏『租税法』(弘文堂) ¥2,800

## 社会保障法

佐 藤 時次郎

### I 社会保障法総論

1. 社会保障立法の推移
2. 社会保障法の概念
3. 社会保障法の大系

### II 社会保障法各論

1. 健康保険法・国民健康保険法
2. 労働者災害補償保険法
3. 雇用保険法
4. 厚生年金保険法
5. 国民年金法
6. 国家的扶助金法

上記項目に従いその要点につきノートを取らせ、問題点に関する学説、判例、裁定例及び現実生じた事件等に解説を加える。

## 外交史

首 藤 素 子

19世紀末から第2次世界大戦に至る国際政治の展開を扱い、最終回には冷戦の起源まで進めたい。

第1部として、ドイツの国家統一にはじまる西歐列強間の勢力均衡政策の展開とその帰結としての第1次世界大戦の勃発に至る外交史の展開を講義する。

第2部として、ヴェルサイユ体制ならびに東アジアにおけるワシントン体制の形成とその崩壊の過程をあつかう。単なる事件史としてではなく、その背後にある経済的、社会的要因やさまざまな政治指導者たちの思想について理解を深め、現状認識や将来の展望に対する長期的で相対的な視野を得るような講義内容にしたい。  
〔教科書〕 講義において指示する。

## 国際法 II

桜 井 光 堂

紛争の強力的解決のための法領域は、戦時国際法または交戦法規と、その前段階に属する強力的な紛争解決の諸手段に関する法領域とから成る。一言にして表現すれば、平時国際法領域と、戦時国際法領域の二つの法領域の中で後者をさす。国際法上の戦争と、平和条約による平和への転換(平和の回復)という二つの法現象は人類の営む国際社会の法たる国際法を平時と戦時の二つの部門に分つ。ここでは三年次(四年次を含めて)の学生のために、交戦法規もしくは強力的紛争解決手段の法を全般的に概説するが、なるべく実際の事件などを引用して理解に便ならしめるようにしたい。

〔参考書〕 桜井光堂著『改訂 国際法』(有信堂)



## 国際私法

笠原俊宏

渉外的要素を有する私法上の問題の規律を目的とするのが国際私法である。講義においては、内国の法源である法令およびいくつかの特別立法について解説し、さらに、国際私法の展望として、画期的に変化しつつある準拠法決定の構造を解明したい。時として難解であるといわれる法分野であるが、講義そのものは理解しやすいものとなるよう工夫するつもりである。  
〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

## 時事英語

山下高明

生きた英語の宝庫である英文新聞・雑誌は流動する内外情勢を把握するための絶好の手がかりを提供するものである。英文紙を読解できるようになることは新しい21世紀に要求される国際人にとり欠くことのできない条件である。

本講では最新の内外英文新聞・雑誌の記事・論評を資料として時事英語の特有の語法やスタイルを解明し、あわせて重要なニュースの意義と背景についても解説をくわえる。

〔教科書〕山下・寺沢共編『英文時事ニュース読解』  
(古今書院)

## 3・4年次選択科目

### 外書講読(英)

島原宏明

イギリスまたはアメリカの私法に関する基本書の中から記述の平易なものを選んでいっしょに読んでいくつもりである。具体的な授業の進め方については受講生諸君と相談して決めたい。

〔教科書〕プリントを配布する。

### 外書講読(英)

金子昇平

前期はアメリカ憲法を逐条的に読み、基本的人権と統治機構に関して、どのような憲法問題が存在するのかを明らかにしていきたい。後期はアメリカ最高裁判所の判

例を読み、判例の研究にウエイトを置いた講義をしていく。

〔教科書〕開講時にプリントを配布する。

〔参考書〕講義内容に応じて適宜指示する。

### 外書講読(独)

松村格

法理論の書物を教材にして講読したいと思っている。但し、どちらかといえば公法(特に刑法)分野の内容のものを使用したい。方法論としては、新しいシステム論によって法を分析したものを読みたい。新しい法理論を勉強してみたいと思う人は、積極的に参加してみるとよいと思う。まずは門を叩くことが大事であり、何事もそこから始まるということです。

〔教科書〕授業が始まってから指示する。

### 外書講読(仏)

荒木正孝

わが国の法制度は、その多くが欧米諸国の影響を強く受け、またはそれらに倣って作られたものであるから、母国における法制度の内容や法的思考等を学ぶことは、わが国の諸制度を理解するうえで重要な意味がある。この授業では、原書の読解によってフランス法の仕組みやその背景について理解を深めてゆく。受講者は、毎回十分に下調べをして出席するように希望する。

〔教科書〕受講者と相談して決める。

### 外書講読(中)(3選)

江英居

社会主義中華人民共和国の新憲法と三民主義中華民国の「五権憲法」を解説しながら、それぞれの国家統治構造及び基本人権について規定を比較しながら授業を進めていく。

〔教科書〕江英居著『中国憲法』(大学書林)

〔参考書〕『中華人民共和国憲法』(北京 新華社)

1982年

『六法全書』(台北 三民書局)

### 外書講読(中)(4選)

江英居

社会主義中華人民共和国における現在実施されている中華人民共和国刑法についての特徴を講読し、特に、死刑の執行猶予制、主刑の一つである保護観察の設け及び附加刑の一つである政治的権利の剥奪の規定などの刑罰

理論を解説する。

一方、三民主義中華民国における現在実行されている中華民国刑法についての刑罰理論を講義する。

〔教科書〕江 英居著『中国刑法』（公論社）

〔参考書〕『中華人民共和国法律匯編』（人民出版社）  
『六法全書』（台北 三民書局）

## 外 書 講 読（ス）

佐 藤 玖 美 子

スペイン最大の発行部数を誇るEl País 紙の、特に政治、社会面の講読を行う。学生諸君が、1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、社会主義国である一方で王制を存続させている特殊な国、スペインの政治、社会情勢をさぐってみよう。

〔教科書〕プリント

律が刑事訴訟法である。

本来、この法律は、刑事司法の運営にたずさわる実務家にその行為の準則を示すものであるため、初学者にとってなじみにくい専門的・技術的な規定が少なくない。しかし、本講義では、あまり細部にとらわれることなく刑事訴訟制度の基本的な枠組の理解に重点を置く予定である。その際、特に、理論的問題だけでなく実務での現実の運用や欧米の刑事手続との比較などにもできるだけ論及し、刑事司法に対する興味・親近感をより一層喚起できれば……と考えている。

〔教科書〕横川敏雄著『刑事訴訟』（成文堂）

## 4 年次選択科目

### 4 年次必修科目

#### 刑事訴訟法

齊 藤 誠 二

刑事訴訟の制度は、その時代のその国の社会的・文化的・政治的な要請を鋭く反映する法制度である。ここでは、刑事訴訟の流れにそって現代のわが国の刑事訴訟が当面しているいろいろの問題を分析しながら、わが刑事訴訟が歩む方向を考えていく。また、刑事訴訟はひじょうに実践的な性格をもつものでもある。そこで、ここでは、ただ、刑事訴訟の理論的な分析ばかりではなくて、実際に訴訟の場でおこなわれている姿が多く語られることになるであろう。さらに、現代の刑事訴訟は、刑事司法という形で、刑事政策と深くむすびついている。ここでは、いつも、こういう方向でのアプローチも心掛けていくつもりである。

〔教科書〕追って教場で指示する。

〔参考書〕松尾浩也『刑事訴訟法』（上・下I）  
（弘文堂）

鈴木茂嗣『刑事訴訟法』（青林書院新社）

横川敏雄『刑事訴訟』（成文堂）

松尾・鈴木編『刑事訴訟法を学ぶ』（有斐閣）

#### 刑事訴訟法

加 藤 克 佳

刑事訴訟の目的は、適正な手続に基づいて実体的真実を発見することにあるが、そのための手続を規定した法

#### 法 哲 学

矢 崎 光 圀

現代は変動の時代である。法もまた変わらざるをえない。情報化社会、高度技術化社会……といわれる現状のなかで法はどんな役割を果し、また果すべきであるか？このような疑問はすでに「法とは何か」と「法はどう在るべきか」という法哲学上の基本的な問いかけを含んでいる。かたい言葉でいうと、法の定義、概念規定と法の価値、理念の課題であるが、それらは法哲学が取りくむ数多い課題の若干にすぎない。こうしてみると、法哲学は私たちが身辺をふり返り、それと法とのかかわりを模索し思索し反省するところからはじまるのではない。こういう角度、法と人間の角度から上記の課題のほか、法の解釈の課題などに少しづつ入ってみよう。

〔参考書〕矢崎光圀『日常世界の法構造』（みすず書房）  
¥3,000、その他。

講義の早い段階で参考文献の紹介をする。

#### 民 法 IV (2)

青 山 尚 史

民法IV-(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

## 倒産法

雨宮 眞也

倒産は、社会の縮図であり、生きたドラマである。倒産において、経営者、債権者、従業員その他関係者の利害は、最も鋭くからみあい対立する。これを解きほぐし、妥当な処理を行うためには、破産法、会社更生法のみならず、民法、商法、借地借家法、労働法、民事訴訟法、民事執行法などを総合的に活用していかなければならない。破産法を学習することは、これらの諸法の復習、集約としての意味をも持つであろう。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

## 政治思想史

小林 正敏

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。

〔教科書〕特定のテキストは用いない。

## 商法Ⅲ

山田 泰彦

前半は、海商法の重要問題を中心に、後半は保険法の重要問題を中心に講義します。

## 知的財産権法

盛岡 一夫

企業が発展するために必要なことは、優秀な技術を開発することであり、そのために企業は巨大な投資をしている。そこで、前期は、発明はどのような手続によって特許権を取得するのか、従業者が発明した場合の法律関係、特許権の保護、ノウハウ、トレード・シークレット（企業秘密）およびコンピュータ・ソフトウェアの保護について講義する。後期は、意匠法、商標法および著作権法について解説する。

〔教科書〕盛岡一夫『工業所有権法概説』（法学書院）

## 民事訴訟法Ⅱ

梅 善夫

民事訴訟法第3編上訴および民事執行法について講義する。年間講義予定時間のうち3分の1を上訴に、3分の2を民事執行法にあてる。第1回目の講義の時に年間の講義予定表を配付する。

〔教科書〕石川 明編『民事執行法』（青林書院）

〔参考書〕新堂幸司・竹下守夫編『基本判例からみた民事執行法』（有斐閣）

# 政治学科

## 基礎教育科目

基礎政治学 (福田 耕治) .....	60
基礎政治学 (浦田 早苗) .....	60
基礎政治学 (小林 正敏) .....	60

## 専門教育科目

1 年次必修科目	
憲法 (竹花 光範) .....	61
1 年次選択科目	
海外政治事情 (東アジア圏) (竹花 光範) .....	61
海外政治事情 (西欧圏) (佐藤 恭三) .....	61
海外政治事情 (東欧圏) (小林 正敏) .....	61
海外政治事情 (北米圏) (小堀 訓男) .....	61
海外政治事情 (中近東・アフリカ圏) (山下 高明) .....	61
海外政治事情 (東南アジア圏) (首藤 素子) .....	62
海外政治事情 (中南米圏) (大森 淳正) .....	62
2 年次必修科目	
政治学原論 (福岡 政行) .....	62
日本政治史 (寺崎 修) .....	62
経済原論 (浅野 克巳) .....	62
行政法 (総論) (梅木 崇) .....	62
国際法 (桜井 光堂) .....	62
2 年次選択科目	
社会学原理 (渡辺 源樹) .....	63
マス・コミュニケーション論 (相田 敏彦) .....	63
比較社会構造論 (江上 勲) .....	63
刑法 (山口 邦夫) .....	63
民法 (山本 豊) .....	63
外国法 (英米法) (佐々木 信) .....	63
プロゼミ (小林 正敏・小堀 訓男・寺崎 修) .....	63
プロゼミ (相田 敏彦) .....	64
プロゼミ (浦田 早苗) .....	64
プロゼミ (早川 純貴) .....	64
プロゼミ (福田 耕治) .....	64
プロゼミ (前田 英昭) .....	64
3 年次必修科目	
政治社会学 (上條 末夫) .....	64
行政学 (福田 耕治) .....	64
国際政治学 (小堀 訓男) .....	65
外交史 (首藤 素子) .....	65
政治制度 (前田 英昭) .....	65
4 年次必修科目	
政治思想史 (小林 正敏) .....	65

## 3・4 年次選択科目

外書講読 I (英) (相田 敏彦) .....	65
外書講読 I・II (英) (小堀 訓男) .....	65
外書講読 I・II (英) (佐藤 恭三) .....	65
外書講読 I・II (英) (竹花 光範) .....	66
外書講読 I・II (独) (早川 純貴) .....	66
外書講読 I・II (仏) (荒木 正孝) .....	66
外書講読 I (中) (3 選) (江 英居) .....	66
外書講読 II (中) (4 選) (江 英居) .....	66
外書講読 I・II (ス) (佐藤 玖美子) .....	66
政治心理学 (上條 末夫) .....	66
財政学 (里中 恆志) .....	66
国際経済学 (徳永 俊明) .....	67
日本法制史 (大久保 治男) .....	67
西洋法制史 (佐々木 信) .....	67
西洋政治史 (浦田 早苗) .....	67
福祉国家論 (福岡 政行) .....	67
経済政策 (森岡 仁) .....	67
刑事政策 (齊藤 誠二) .....	67
比較憲法 (竹花 光範) .....	68
行政法 (各論) (梅木 崇) .....	68
経済法 (江上 勲) .....	68
商法 (島原 宏明) .....	68
労働法 (佐藤 時次郎) .....	68
比較政治学 (福岡 政行) .....	68
財政史 (坂入 長太郎) .....	68
東洋政治史 (山田 辰雄) .....	69
国際関係論 (首藤 素子) .....	69
国家安全保障論 (小堀 訓男) .....	69
宣伝広告論 (上條 末夫) .....	69
政党論 (早川 純貴) .....	69
議会関係法 (前田 英昭) .....	69
地方自治法 (梅木 崇) .....	69
出入国管理論 (竹内 昭太郎) .....	70
時事英語 (山下 高明) .....	70

# 政治学

## 基礎教育科目

### 基礎政治学

福田 耕 治

政治学の幅広い眺望を心得て、基礎的な概念や考え方になじんでおくことは重要である。現代の政治現象を理解するために、本講義ではまず伝統的な政治学の基礎である政治制度や政治思想、政治権力論などを概説する。次に、政治意識と政治参加、世論と圧力団体、政党と選挙、議会と政治家、官僚制および国際関係などに関する問題を取り上げ、政治の動態的な側面や政治と行政の関係を明らかにする。その際、政治過程論、政治行動論の観点からする現代政治学の分析手法についても検討を加える。このような作業を通じて、デモクラシーの理念と現実との間のギャップや現代政治の構造と過程の問題状況を探究することにした。

〔教科書〕太田・金丸編『政治学への視点』  
(法律文化社)

### 基礎政治学

浦 田 早 苗

本講座は、複雑かつ国際化された現代の政治を誤りなく把握する上で必要な基礎知識を概論し、併せて政治学の専門分野への導入をはかるものである。

政治と政治学の基礎用語の解説、及び政治の機構、理論、過程を考察していくが、政治的視野の拡大のため、適宜時事問題もとり上げていく。

〔教科書・参考書〕開講後、追って指示する。

### 基礎政治学

小 林 正 敏

本講座は「政治学入門」のために設けられているものである。従って、まず政治学がいかなる学問であるかを理解するとともに、専門的な政治の諸領域を学ぶについて必要とされる基礎的知識を身につけることを目的としている。

また本講座は2年次に配当されている政治学原論と不可分の関係にあり、基礎的、全般的であると同時に、選

挙制度、国際機構、政治思想、民主政治論などにはとくに力をいれ、政治学原論と合わせて全体をカバーすることになっている。講義にあたって、随時、時事的な問題も取りあげて、理論と現実がかみ合うように心がけたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

# 専門教育科目

## 1 年次必修科目

F. H. Hinsley, *Power and the Pursuit of Peace* (C.U.P. 1967)

### 憲法

竹花光範

まず、日本国憲法成立の経緯と法理について述べ、ついで日本国憲法の特質について述べる。その後、日本国憲法本文の各条について講義するのであるが、時間的に逐条的講義には限界があるので、各章ごとに規定内容と問題点を整理し、日本国憲法の存在性格が理解できるような講義としたい。

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

### 海外政治事情（東欧圏）

小林正敏

ここでいう“東欧”とは、ソ連・東欧共産圏諸国を意味している。そこでこの講義では、第二次大戦以後のソ連および東欧諸国の政治を中心に、その国際関係、社会構造等にも論及することにした。テキスト、参考書等は、開講後に指示する。

### 海外政治事情（北米圏）

小堀訓男

前期は、アメリカ史を概観し、「アメリカの民主主義」にキリスト教が、どのような影響を与えたか、を中心に考察する。

後期は、ルーズベルト大統領からレーガン大統領までの、アメリカ政治の特質を、各大統領のおこなった政策決定という側面から観察して、アメリカ政治を理解する。  
〔教科書〕講義中に指示する。

## 1 年次選択科目

### 海外政治事情（東アジア圏）

竹花光範

本講義の中心は、中国の政治事情である。時間が許せば、その他、南北朝鮮、モンゴルについても論及したい。なお、講義の内容は、過去から現在にいたる政治事情の変遷が中心になるが、できるかぎり、時事的な問題もとりあげてコメントしていくつもりである。

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

### 海外政治事情（西欧圏）

佐藤恭三

日々生起する事象を知るだけで、現実がわかるわけではありません。現実の基底には“時”の流れがあります。この講義をこういう視点から取り組むつもりです。つまり現代のヨーロッパ政治を歴史的にとらえていこうというわけです。とりあえず、近代ヨーロッパ史の大きな“うねり”となった19世紀中葉を講義のスタートとします。

〔教科書〕特に指定しません。

〔参考書〕R. Hanghorne, *The Collapse of the Concert Europe* (Macmillan, 1981);

### 海外政治事情（中近東・アフリカ圏）

山下高明

世界最大の産油地帯中近東・北アフリカは複雑な各国政情にくわえ米・ソ超大国の戦略がからみ合うきわめて重要な地域である。しかもこの地域ではパレスチナ紛争、イラン革命、イラン・イラク戦争、アフガニスタン戦争と世界史的な事件が続発し現代世界で最大の紛争多発地帯となっている。

本講では中近東情勢の現状を最新資料によって分析し、その歴史的背景と将来動向の解明を試みる。

〔教科書〕山下高明『中東政治へのアプローチ』  
(弘学出版)

## 海外政治事情（東南アジア圏）

首藤素子

今年度はASEAN諸国を各国別にとりあげ政治史の展開と現状の問題について概観する。次に、国際関係における東南アジアそしてアジアNICSの政治経済的問題を扱う。日本との関わりが深いにもかかわらず、学生からあまり関心をもたれることのなかった東南アジア地域に対して何らかの知的関心あるいは基礎的な理解を得てほしいと願う。

## 海外政治事情（中南米圏）

大森淳正

中南米諸国の他地域と相異なる諸特徴を解明するため、スペイン・ポルトガルの植民時代、19世紀の独立の経緯に遡って、民族性の成立過程を考え、独自の政治様式の定着をマクロの視点で概観し、更に現代の社会相の変化と問題点を具体例をひいて研究する。

特に中南米で問題化している金融不安と革命内戦の基盤となる、利権政治と独裁制の根源を歴史的に、また、社会制度の視点から、検討し、今後の状況についての見とおしの手掛りを示唆することに重点を置く。中でも近來の特徴的な政治変革や経済的動揺については、各国の具体的な動静を新聞情報を通じて把握する方法をも併せて講述する。

〔教科書〕なし（講義要領プリント配布。）

〔参考書〕F. G. ヒル著、アンドラーデ・村江共訳  
『ラテン・アメリカーその政治と社会―』  
（東京大学出版会）¥580

## 日本政治史

寺崎修

明治維新以降の近代日本政治史を講義する。ただし、近代日本政治史上の諸問題に重点をおくので、基礎的知識については、概説書により予習しておくことを希望する。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 経済原論

浅野克巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。

### I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 価格決定

### II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 経済の変動と成長

### III 現代経済学の課題と方向

### IV 経済学の生成過程

〔教科書・参考書〕最初の授業で説明します。

## 行政法（総論）

梅木崇

行政法学の基礎理論を具体的事例を通じて理解することを目的とする。当然のことながら、最高裁判所の判例を中心とする諸種の判例を素材とする解説を行う。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』（啓正社）

## 2年次必修科目

### 政治学原論

福岡政行

本講座は政治学全体の理論的位置づけを行うもので、多角的な分析を行う。

行政国家＝福祉国家＝大衆社会という今日的状況の下で、議会デモクラシーをどのように理解するのが重要なポイントになる。システム分析・文化論的アプローチ・社会化理論などを中心に、前期は理論的分析を中心に行う。

後期は、政治学のかかえる今日的課題について、応用科学としての政治学原論と考え、講義を進めてゆく。

## 国際法

桜井光堂

国際法を全般的に概説するつもりであるが、とくにできるかぎり、実際例をとり入れることによって、とくく抽象的な法理論と見られやすい国際法を現実の法として理解しうるようにつとめてみたい。

〔教科書〕桜井光堂著『改訂 国際法』（有信堂）

## 2 年次選択科目

### 社会学原理

渡辺源樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

### マス・コミュニケーション論

相田敏彦

新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等のマス・メディアは、さまざまな形で人々の生活に浸透し、大きな影響力をふるっている。人々はマス・メディアに接触するなかで、欲求を充足し、また、行動上・心理上大きくメディアに依存している。

「送り手」から「受け手」にいたるマス・コミュニケーションのプロセス、メディアの「効果」・影響、人々によるメディアの「利用と充足」等に関して検討する。  
〔参考書〕竹内郁郎・児島和人編『現代マス・コミュニケーション論』（有斐閣）¥3,700

### 比較社会構造論

江上勲

社会構造の概念は多様であるが、本講座は国民社会を構成する経済主体が機能的分業関係を持ちながらその間に発生する階級・階層関係のパターンであるとこれを理解し、第一部においては、資本主義機構のなかで新中間階級としてのホワイトカラーの発達に資本主義の安定化をもたらしていることを国際的・統計的に解明する。第二部においては、わが国の戦前の階級対立の発生原因と実情を回顧し、これと対比して戦後の民主化政策による階級対立の緩和と中間層意識の普及を実証的に明らかにする。

〔教科書〕開講時に指示する。

### 刑法

山口邦夫

この時間は、いわゆる実定刑法の解釈学を講義するのではなく、政治思想と関連させながら、刑事法をめぐる法思想を中心に、おもに啓蒙期以降の法的思考を考察す

る。但し毎時限、出席することができ、さらに、こちらで指定する文庫本などを読破してくる意欲のある者の参加を望む。内容は、少人数のゼミ風に、討論中心となる。  
〔参考書〕そのつど前の週に指示する。

### 民法

山本豊

民法財産法の前半部分、すなわち民法総則と物権法についての概念的講義を行う。具体例や判例をできるだけ多く取り上げて説明するつもりであるが、受講に際しては、予めテキスト等で予習をしてもらうことを期待したい。

〔教科書〕好美清光・米倉明編『民法読本1』

（有斐閣）¥1,600

〔参考書〕開講時に指示する。

### 外国法（英米法）

佐々木信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)わが国と英米法 (2)英米法の諸特質 (3)英米法の構造と法源 (4)現代英米法研究諸傾向管見。なお、本講では英米法体系Anglo-American System of Lawあるいはコモン・ロー体系Common Law System と称される法文化の精神と技術の基礎的な理解に力点をおくとともに、これを通じていわゆる比較法学の基本的な諸問題の省察にすこしでもすすんでいきたいと思う。

〔教科書〕佐々木信『イギリス法学講義』（上）

（成文堂）

〔参考書〕講義において適宜指示する。

### プロゼミ

小林正敏・小堀訓男  
寺崎修

プロゼミは本ゼミのための予備的な知識および研究方法について考究し、討議するものである。

そこで、次のことを中心にして指導を行う。

1. 政治学一般に関する研究方法  
テーマのきめ方、文献や資料の選び方およびその使用方法など。
2. 研究論文の書き方
3. 研究発表の方法
4. 各種の実地見学  
政治学を学ぶにあたって必要な施設・機関などの見学を適宜行う。



## プロゼミ

相田 敏彦

第1に、放送番組の内容や放送局自体に関する大きな問題点を、文献資料や番組自体からさぐりだし検討のテーマにする。

第2に、マスコミを含めたコミュニケーション事象を記号論という角度から把握する方法を学ぶ。

みずから調べ、考えをまとめ、レポートするという態度を1年間持続できる人の参加を期待する。

〔参考書〕池上嘉彦『記号論への招待』（岩波書店）

## プロゼミ

浦田 早苗

国際化、情報化された現代の政治に関する様々な問題を取り上げ討議・検討を行う。各自の問題意識を高めること、及び専門分野への予備知識をつけることに主眼をおいている。

〔教科書・参考書〕追って指示する。

## プロゼミ

早川 純貴

前半は日本および世界の政治・経済上の重要な事件をとりあげ、毎時間二つの班にそれぞれ違う観点から問題点の報告をしてもらい、合わせてパネル・ディスカッションをおこなう。後半ではそれぞれの班が自由にテーマを決め発表・討論をおこなう。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

## プロゼミ

福田 耕治

このプロゼミでは、研究のしかたや論文の書きかたの他に、政治や行政に対する関心を深め、各自の問題意識を養うことを目指したい。前期は、日本の政策決定過程、官僚制、政党と圧力団体、情報公開、国際関係の問題など幅広い視野のもとに政治学の基本問題を討議し、現代政治を見る眼を育てる。これを踏まえて後期は、ECにおける政治統合について考察する。ECの政治機構と行政官僚制、議会と直接選挙制度、政党、共同体政策など政治学・行政学分野の問題を中心に取り上げる。また視聴覚教材等も活用し、基礎的な文献や資料を読み、これをじっくり吟味するという方針から、各人または各グループ毎に分担発表してもらおう。活発な討論を期待している。

〔教科書〕最新の文献や資料を選んですすめていきたいので、必要に応じて紹介、指示する。

〔参考書〕アン・ダルトロップ『ヨーロッパ共同体の政治』（有斐閣）  
金丸輝男編著『EC・欧州統合の現在』（創元社）

## プロゼミ

前田 英昭

議会制民主主義の制度と実態の問題を中心テーマにしなが、本ゼミのための予備的な知識及び研究方法等について考究し、討議する。

〔教科書〕『バジヨット、ラスキ、マッキーヴァー』  
〔ボックス世界の名著（第72巻）〕¥980

## 3 年次必修科目

### 政治社会学

上 條 末 夫

現代政治学の中心をなすのが政治社会学である。その対象領域は広範であり、方法は多様であるが、主として日本の現代政治を対象とし、そのメカニズムを多角的かつ総合的に分析する。具体的には、日本のデモクラシーのあり方に視点をおき、内閣や政党の構造、政治参加としての選挙、マス・メディアや圧力団体の機能と役割、世論の形成と機能などを取り扱う。

〔教科書〕上條末夫『政治社会学概論』（北樹出版）

〔参考書〕堀江 湛ほか『現代の政治と社会』（北樹出版）

### 行政学

福 田 耕 治

現代国家は「行政国家」といわれている。それは行政の量的拡大と質的变化、特に立法権に対する行政権の優越を特徴とする。そこには官僚制をめぐる諸問題、テクノクラートの支配による民主主義や代議制の危機という問題が横たわっている。このような行政現象を的確に把握する観点から、(1)行政学の課題と方法、行政学発達の歴史、(2)現代行政学の動向、官僚制と行政責任論、(3)国際行政、国内行政と国際行政の関係などを中心として取り上げる予定である。また、わが国が当面している行政上の諸問題にも注意を払いながら基本問題に焦点を絞り、理論と実際の両面から現代行政にアプローチして

みたい。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

## 国際政治学

小堀訓男

国家、権力、国際政治の主体、国際政治の客体、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等を中心に、前期では“国際政治の本質”について講義する。後期では“国際政治の問題”として、二つの世界の対立、植民地ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーを中心とした国際問題を中心に検討する。

## 外交史

首藤素子

19世紀末から第2次世界大戦に至る国際政治の展開を扱い、最終回には冷戦の起源まで進めたい。

第1部として、ドイツの国家統一にはじまる西欧列強間の勢力均衡政策の展開とその帰結としての第1次世界大戦の勃発に至る外交史の展開を講義する。

第2部として、ヴェルサイユ体制ならびに東アジアにおけるワシントン体制の形成とその崩壊の過程をあつかう。単なる事件史としてではなく、その背後にある経済的、社会的要因やさまざまな政治指導者たちの思想について理解を深め、現状認識や将来の展望に対する長期的で相対的な視野を得るような講義内容にしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

## 政治制度

前田英昭

イギリス、アメリカ、フランス及び西ドイツの政治制度の歴史的発展を辿りながら、日本と比較して、各国において現在どのような特色を持った政治体制の中で政治が行われているかを明らかにする。

教科書は特に使わない。

〔参考書〕前田英昭『世界の議会 イギリス』

(ぎょうせい)

読売新聞社『世界の議会』

## 4年次必修科目

### 政治思想史

小林正敏

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。

〔教科書〕特定のテキストは用いない。

## 3・4年次選択科目

### 外書講読Ⅰ(英)

相田敏彦

マス・メディアは一般の人々の価値感や現実の定義＝規定の仕方に大きな影響力をふるっている。この関連の研究が近年欧米で活発化している。なるべく読みやすいものを教材に選びたい。

### 外書講読Ⅰ・Ⅱ(英)

小堀訓男

本年度は、モーゲンソー著の“Politics among Nations”の中の“PARTFOUR-The Balance of Power”を読みながら、国際政治における“力の均衡”の理論を考える。

〔教科書〕開講時に必要な部分をプリントして配布する。

### 外書講読Ⅰ・Ⅱ(英)

佐藤恭三

太平洋戦争前後から現在にいたるまで、日米関係が重視され、日英関係がいきおい背景に追いやられている現状がある。第一次世界大戦以降の日英関係の変遷を辿る本書のなかから、特に太平洋戦争直前の対英外交を論じた部分を中心に学びたい。

〔教科書〕K. Sato, *Japan and Britain at the*

*Crossroads* (Tokyo: Senshu U.P., 1986)

(コピーで配布します。)

## 外書講読 I・II (英)

竹花光範

本年度は、A. H. Birch, Representative and Responsible Government. の一部を読む予定である。例年通り、進行度にとらわれず、内容を吟味することに時間をかけていくつもりである。

〔教科書〕開講時に必要な部分をプリントして配布する。

## 外書講読 I・II (独)

早川純貴

戦後西ドイツにおける政党政治の展開、とりわけドイツ社会民主党による政権奪取のいきさつに関するドイツ語の文献をとりあげ、いかにしてドイツ社民党が政権をとりえたかを考える。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 外書講読 I・II (仏)

荒木正孝

わが国の法制度は、その多くが欧米諸国の影響を強く受け、またはそれらに倣って作られたものであるから、母国における法制度の内容や法的思考等を学ぶことは、わが国の諸制度を理解するうえで重要な意味がある。この授業では、原書の読解によってフランス法の仕組みやその背景について理解を深めてゆく。受講者は、毎回十分に下調べをして出席するように希望する。

〔教科書〕受講者と相談して決める。

## 外書講読 I (中) (3選)

江英居

社会主義中華人民共和国の新憲法と三民主義中華民国の「五権憲法」を解説しながら、それぞれの国家統治構造及び基本人権について規定を比較しながら授業を進めていく。

〔教科書〕江英居著『中国憲法』(大学書林)

〔参考書〕『中華人民共和国憲法』(北京 新華社)

1982年

『六法全書』(台北 三民書局)

## 外書講読 II (中) (4選)

江英居

社会主義中華人民共和国における現在実施されている中華人民共和国刑法についての特徴を講読し、特に、死刑の執行猶予制、主刑の一つである保護観察の設け及び附加刑の一つである政治的権利の剥奪の規定などの刑罰理論を解説する。

一方、三民主義中華民国における現在実行されている中華民国刑法についての刑罰理論を講義する。

〔教科書〕江英居著『中国刑法』(公論社)

〔参考書〕『中華人民共和国法律滙編』(人民出版社)

『六法全書』(台北 三民書局)

## 外書講読 I・II (ス)

佐藤玖美子

スペイン最大の発行部数を誇るEl País紙の、特に政治、社会面の講読を行う。学生諸君が、1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、社会主義国である一方で王制を存続させている特殊な国、スペインの政治、社会情勢をさぐってみよう。

〔教科書〕プリント

## 政治心理学

上條末夫

政治行動論の一つとしての政治心理学は、政治現象の心理的側面を分析する学問である。政治的人間の意識、態度、行動などの特徴を明らかにし、さらに集団行動としての大衆運動、投票行動などを分析する。また、集団内におけるリーダーシップ、グルーピング、ヒューマンリレーションなども扱う。

〔教科書〕堀江・富田・上條編著『政治心理学』

(北樹出版)

## 財政学

里中恆志

経済生活のなかで公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこには市場経済原理とは異なる原理が機能する。国民が財政意志の形式に参加する方法は民主的な手続をとってであるから、適切な財政政策の実現のためには国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。このような観点から公共収入政策、公共支出政策の原理および基準を考察し、現実の財政問題に対する判断力を

養う。

〔教科書〕授業始めに指示する。

## 国際経済学

徳永俊明

資本主義世界経済の歴史と第2次世界大戦後の資本主義世界経済の主要な問題について、その基本的メカニズムの解明をめざします。講義内容はつぎのとおりです。

I 資本主義世界経済の歴史（時期区分と各時期の特徴・歴史的位置づけ）

II 第2次世界大戦後の資本主義世界経済（歴史的位置と基本構造、貿易、国際通貨制度、資本輸出—「援助」・多国籍企業、新植民地主義、「南北問題」と新国際経済秩序、資本主義世界経済の危機、日本経済と世界経済、その他）

〔教科書〕徳永俊明『世界経済と第3世界』（大月書店）  
¥1,800

## 日本法制史

大久保治男

我が国における法律文化の変遷の流れを上古時代より近代まで概説する。基本法、刑事法、財産法、家族法等の各分野につき幅広くふれ、さらに我々の意識や興味や風習・言語等の中に残る法制史的事柄にまで展開したい。教授方法は講義の他にOHP、スライド、ビデオ等視聴覚的教材やシンポジウム方式もとり入れ楽しい法制史にして学生の研究意欲を起こさせるよう工夫する。温故知新、永劫回帰なのでもあるから我々の祖先の法律文化の沈積物を発掘、探求して価値づける。世は「歴史ブーム」である。時代考証にも役立ち、多くの話題を受講生に提供する一味ちがうユニークな法制史にしたい。学問探求には史的考察が必須前提でもあろう。

〔教科書〕大久保治男著『日本法制史概説』（声書房）

〔参考書〕大久保治男著『大江戸刑事録』（六法出版社）

## 西洋法制史

佐々木 信

講義内容としてはつきを予定している。

(1)いわゆる「西洋法制史」学の形成・その学問的性格について、(2)ヨーロッパの法文化における諸要素について、(3)ヨーロッパにおける封建法の形成過程について、(4)ヨーロッパ中世における法思想の理解について。

歴史は現代の理解に資するとする考えもあることであるので、上記についてはとくに今日における理解を紹介することに力を入れたい。西洋法制史の分野では、今のところ、企画はあるものの、適当な教科書はないので、学生諸君に入手可能な史料を教材とする予定である。

## 西洋政治史

浦田早苗

「西洋の近代化はいかにしてなされたのか」という視点から18～20世紀初頭にかけてのイギリス、フランス、アメリカを中心に考察する。イギリス議会政治の発展、変貌過程、フランス市民政治の成立、変遷過程は特に関心をもってながめていきたい。

〔教科書・参考書〕開講後、追って指示する。

## 福祉国家論

福岡政行

現代国家は、行政国家と言われる。そして、現代の行政国家は、その基底において、マス・デモクラシーを採用しているため、必然的に福祉国家の傾向がある。

しかしながら、今日、福祉の見直しが叫ばれ、福祉予算の再検討が始まっている。確かに、ありあまる福祉は“福祉症”を生み、無気力人間を生んでくる。だが、本当に福祉を必要としている人は、依然として多い。

このような社会的背景を踏まえて、日本の権力構造を分析して、講義を進めてゆきたい。

ディスカッションなども採り入れてゆきたい。

〔教科書〕追って指示。

## 経済政策

森岡 仁

経済政策を理解するには経済の理論的知識を必要とするが、ここでは法学部の学生諸君にも十分理解しうらうように講義を進める。内容は以下のとおりである。

I. 現代経済と経済政策 II. 経済政策学の発展

III. 現代経済政策の課題 IV. 経済の成長政策

V. 経済の安定政策 VI. 産業組織政策

VII. 社会均衡化政策 VIII. 経済政策と人口政策

〔教科書〕森岡（他）『現代経済政策』（千倉書房）

¥2,300

## 刑事政策

齊藤誠二

これまで、刑事政策は、犯罪の原因を生物学的・心理学的・社会的に分析する犯罪原因論と、犯罪者をどう処遇するのか・社会から犯罪をなくすためにはどうしたらよいか、ということを考える犯罪対策論からなる、といわれていた。ところが、1970年代から、ヨーロッパやアメリカでは、ふつう、この2つのほかに、法の執行の過程ないしは刑事司法のプロセスというものを分析す

ることがくわえられるようになってきている。これは、国際的に、刑事政策を展開するには、どうしても、どうというプロセスで、犯罪者というレッテルを貼っていくのか、という分析をしなければならぬと考えられたためである。ここでも、こういう方向もくわえながら、わが国の刑事政策が当面する多くの問題を語っていく。

〔教科書〕齊藤誠二『刑事政策Ⅰ』（多賀出版）（前期）  
齊藤 他『刑事政策入門』（有斐閣）（後期）  
〔参考書〕森下 忠『刑事政策大綱入門』（成文堂）

## 比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）
4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

## 行政法（各論）

梅木 崇

昨年度の講義（行政法総論）で講じられなかった部分と、警察行政、給付行政について説明する。特に国家賠償法、行政不服審査法、行政事件訴訟法については、豊富に判例をひいて、抽象的理論の具体的理解を可能にしたい。警察（秩序維持作用）法および給付行政法においては、行政法の基礎理論の具体的応用の面を中心に。その際、行政判例の研究が平行することはいうまでもない。また各種の公務員試験の実例にも言及する予定である。比較的人数の少ない講義なのでゼミナールに類似した形式をとることにする。学生の積極的な意見発表を期待する。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』（啓正社）  
齊藤・梅木著『現代行政法論』（勁草書房）

## 経済法

江上 勲

資本主義が高度化した段階の国民経済では、極度に多様化・分業化した機能を持つ経済主体間の調和は、古典的自由放任主義の経済政策によっては自動的に達成しがたくなる。経済法は、このような経済社会のなかで基本的に市場経済を維持しながら経済の流れに必要なに応じて国家が介入して全体の調和的発展をはかるための諸種の

法から成る。本講座は、かかる経済法の中核をなす独占禁止法の意義を明らかにしたのち、その概要を説明する。講義に当っては基本的事項の理解に努める。

〔教科書〕江上 勲『経済法・独占禁止法概論』  
（税務経理協会）¥3,000

## 商 法

島原 宏 明

現代資本主義社会において最も代表的な企業形態たる株式会社の制度を中心として、商法総則ならびに会社法における様々な論点を採り上げ体系的に考察していく。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

## 労働法

佐藤 時次郎

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に解説を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて新しい動向等の把握に遺憾なからしめたいと考える。

〔教科書〕佐藤時次郎・原 慎一・志賀直人共著  
『社会生活における労働ルール』（蒼文社）

## 比較政治学

福岡 政 行

比較政治とは、世界のさまざまな国を空間的・時間的に比較し、各国の政治システムを明らかにしてゆくものである。

本年は、まずシステム分析の基本的枠組を理論的に検証したあとで、欧米先進民主主義諸国の比較研究をし、さらに、東南アジアのタイの研究をする。そして最終的には、戦後日本のデモクラシーと欧米のデモクラシーを政党・選挙・行政機構・地方自治を中心に展開・分析し比較してゆきたいと考える。

〔教科書〕『世界の政治システム』（芦書房）¥2,500

## 財政史

坂入 長太郎

日本財政史を日本資本主義の発展段階に対応して、財政の政治過程を解説する予定である。

1. 資本主義成立期における財政の政治過程（明治維新—明治23年）
2. 産業資本主義確立期における財政の政治過程（明治23年—大正3年）
3. 独占資本主義期における財政の政治過程（大正3

年一昭和6年)

#### 4. 帝国主義下における財政の政治過程(昭和7年一昭和20年)

本講義では財政(予算)の制度、計数のみに重点を置いて解説するのではなく、予算編成、実施の過程における政治とのかかわり合いを、財政政治(社会)学に理論的基礎をおき解説するものであり、隣設科学としては政治学、政治史、日本経済史が本講義に関連することを付記する。

〔教科書〕坂入長太郎『日本財政史概説』〔第2改訂版〕(バリエ社、発売元 星雲社)

### 東洋政治史

山田 辰雄

アヘン戦争より中華人民共和国の成立にいたる中国政治史を講義する。

〔参考書〕講義時間中に紹介する。

### 国際関係論

首藤 素子

最初に、20世紀になってから欧米諸国で関心の高まってきた国際関係研究の主要な研究史を概説する。

以後第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

〔参考書〕細谷千博・白井久和編『国際政治の世界』(増補改訂版)(有信堂)¥2,800

### 国家安全保障論

小堀 訓男

国際社会のなかで、一つの国家が存続するにはどのような条件が必要なのか、そして、国家的利益とは一体何をもちいて利益というのか、等々を中心に考えながら国家安全保障の原理と理念を究明する。

〔教科書〕小堀・志鳥共著『国家安全保障の研究』(高文堂出版)¥1,200

### 宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

### 政 党 論

早 川 純 貴

戦後のヨーロッパにおいて社会主義政党はいかにして政権を奪取しえたのか。本年は西ドイツのドイツ社会民主党、イギリスの労働党、フランス社会党に焦点を当て、それぞれの政党の政権の座に到達するまでの道程を辿りつつ、合わせて日本における政権交代の可能性を論ずる。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

### 議会関係法

前 田 英 昭

憲法第四章(国会)、国会法、衆・参議院規則、公職選挙法、政治資金規正法など議会に関係する法律を取り上げ、日本の議会政治を取り巻く法状況を明らかにする。教科書は特に使わない。

〔参考書〕秋山陽一郎『選挙・政治活動法』

(ぎょうせい)¥3,000

松澤浩一『議会法』(ぎょうせい)¥3,800

### 地方自治法

梅 木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

## 出入国管理論

竹内 昭太郎

序論で物と人について出入国があり、それを国が管理する行政の存在することを述べ、次に人についての管理が先進文明国で一般にどのような観点から行われているかを、自国民と外国人とに分けて論ずる。

本論としては、わが国で外国人の入国滞在出国について、どのような立地条件と考え方に基いて管理しているかを論ずる。

〔教科書〕竹内昭太郎『出入国管理論』（駒沢書店）

（平成元年度中に駒大書房から出す予定）

〔参考書〕坂中英徳『今後の出入国管理行政のあり方について』（法務省発行：昭和52.12.25非売品）

## 時事英語

山下 高明

生きた英語の宝庫である英文新聞・雑誌は流動する内外情勢を把握するための絶好の手がかりを提供するものである。英文紙を読解できるようになることは新しい21世紀に要求される国際人にとり欠くことのできない条件である。

本講では最新の内外英文新聞・雑誌の記事・論評を資料として時事英語の特有の語法やスタイルを解明し、あわせて重要なニュースの意義と背景についても解説をくわえる。

〔教科書〕山下・寺沢共編『英文時事ニュース読解』

（古今書院）

# 他学部履修科目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)



# 目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道).....	1	アジア経済論(小林 英夫).....	7
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之).....	1	日本経済史(古庄 正).....	7
禅学特講Ⅲ(石井 修道).....	1	中小企業論(三井 逸友).....	7
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅).....	1	教育経済論(谷敷 正光).....	7
禅学思想史(峰岸 孝哉).....	1	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘).....	7
哲学史(中村 友太郎).....	1	財務会計論(遠藤 孝).....	7
印度仏教史(松本 史朗).....	1	管理会計論(中原 章吉).....	8
中国仏教史(佐藤 達玄).....	1	会計監査論(飯岡 透).....	8
日本仏教史(山内 舜雄).....	2	商業政策(岩下 弘).....	8
日用經典(櫻井 秀雄).....	2	貿易論(古沢 紘造).....	8
仏教美術(林 良一).....	2	マーケティング(曾我 信孝).....	8
現代哲学概説(田島 節夫).....	2	原価計算論(加藤 利安).....	9
上代文学(小野 寛).....	2	労務管理論(石井 脩二).....	9
中世文学(水原 一).....	2	行政法Ⅱ(斎藤 寿).....	9
近世文学(渡辺 守邦).....	2	民法Ⅳ(1)(青山 尚史).....	9
近代文学(片岡 懋).....	2	民法Ⅳ(2)(青山 尚史).....	9
中国文学(中村 璋八).....	3	比較憲法(竹花 光範).....	9
英文学特講Ⅰ(英文学16・17c.) (石原 孝哉).....	3	地方自治法(梅木 崇).....	9
英文学特講Ⅱ(英文学18c.) (小林 亨).....	3	経 済 法(江上 勲).....	10
英文学特講Ⅲ(詩19・20c.) (河崎 征俊).....	3	国際関係論(首藤 素子).....	10
英文学特講Ⅳ(小説Ⅰ 19c.) (中岡 洋).....	3	西洋政治史(浦田 早苗).....	10
英文学特講Ⅴ(小説Ⅱ 20c.) (飯島 淳秀).....	3	宣伝広告論(上條 末夫).....	10
英文学特講Ⅵ(批評19・20c.) (丸小 哲雄).....	3	比較社会構造論(江上 勲).....	10
英米演劇特講(落合 和昭).....	3	経 営 学 史(北村 健之助).....	10
米文学特講Ⅰ(詩)(東 雄一郎).....	4	経 営 統 計(後藤 儀一郎).....	10
米文学特講Ⅲ(小説Ⅱ)(山縣 敏夫).....	4	保険経営論(石名坂 邦昭).....	11
時事英語(大沢 一雄).....	4	財務会計論(久松 治夫).....	11
地 質 学(小池 一之).....	4	経営分析論(片桐 伸夫).....	11
気 候 学(中村 和郎).....	4	税務会計論(高木 克己).....	11
人口地理学(上坂 修夫).....	4	商 業 史(山田 勝).....	11
応用地理学Ⅰ(高木 正博).....	4	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美).....	11
都市地理学(今朝洞 重美).....	4	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 儀一).....	11
文化地理学(菱口 善美).....	5	国文講読Ⅲ(中世)(岡崎 正).....	11
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之).....	5	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子).....	12
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(渡辺 惇).....	5	国文講読Ⅴ(近・現代)(大室 英爾).....	12
歴史哲学(麻生 建).....	5	国文講読Ⅴ(近・現代)(田澤 英藏).....	12
哲 学 史(川戸 好武).....	5	国文特講Ⅴ(近・現代)(尾形 国治).....	12
日本民族学(渡邊 欣雄).....	5	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子).....	12
マスコミュニケーション(川本 勝).....	5	時事英語(岡本 誠).....	12
産業社会学(安藤 喜久雄).....	6	計算機言語概論(杉田 徹).....	12
都市社会学(文屋 俊子).....	6	臨床放射線特論Ⅰ(本間 豊).....	12
社会福祉発達史(林 千代).....	6	応用計測学(櫃尾 英次).....	12
ソビエト経済論(山縣 弘志).....	6		
社会政策(光岡 博美).....	6		
国民所得論(吉野 紀).....	6		
中国経済論(小杉 修二).....	6		

# 他学部履修科目

## 禅学特講Ⅰ

原 田 弘 道

### 禅宗と公案

公案は禅宗における經典觀と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案  
(3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

## 禅学特講Ⅱ

黒 丸 寛 之

道元禅師の主著『正法眼蔵』を『永平広録』その他の著述との関連によって講読する。この講座では、必修科目としての『正法眼蔵』の講義内容とは異なり、出来るだけ多くの諸巻について、それぞれの撰述意義を学ぶことを目的とするので、1年間に20巻前後の解説を予定している。

## 禅学特講Ⅲ

石 井 修 道

『宝林伝』巻八を中心に禅宗の達磨像を読む。中国禅の特色は何か。それはどのように形成されて来たか。『宝林伝』には、洪州宗のどんな特色が示されているか。『宝林伝』を中心とした禅宗史の諸問題をいろいろな角度から検討してみたい。  
〔教科書〕『宝林伝』巻八をコピーして配布する。

## 禅学特講Ⅳ

鈴 木 格 禅

### 『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益(1649~1708)のことである。損翁は面山瑞方(1683~1769)の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、

その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『続曹洞宗全書(法語・歌頌)』P.411~P.445までをコピーすること。

## 禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元(1200~53)の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕(春秋社)  
〔参考書〕鈴木泰山『禅宗の地方発展』(吉川弘文館)

## 哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシア哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕教場で指示する。  
〔参考書〕その都度指示する。

## 印度仏教史

松 本 史 朗

インド仏教史を教団史・思想史の観点から概説しさらに個々の思想的問題について考察する。

〔教科書〕『仏教史概説』(平楽寺書店)  
〔参考書〕平川 彰『インド仏教史』〔上・下〕(春秋社)  
奈良康明『仏教史Ⅰ』(山川出版社)

## 中国仏教史

佐藤達玄

中國民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐末代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説-中国篇』（平楽寺書店）

## 日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

## 日用経典

櫻井秀雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕桜井秀雄『曹洞宗回向文講義』 ¥700

『統曹洞宗回向文講義』 ¥700

## 仏教美術

林良一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。なお、後期に図像学の講義を補説する。

〔教科書〕林良一著『ガンダーラ美術紀行』

（時事通信社）¥2,200

〔参考書〕林良一著『シルクロード』（時事通信社）

## 現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲

学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の視点を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』（世界書院）

¥2,500

## 上代文学

小野寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむに当って、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野寛校注『万葉集抄』（笠間書院）

〔参考書〕金井清一・小野寛編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

## 中世文学

水原一

『とはずがたり』（後深草院二条の日記）を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕冨倉徳次郎『とはずがたり』（筑摩書房）

## 近世文学

渡辺守邦

近世の小説を、『伊曾保物語』から初めて『梅暦』まで読む。数多くの作品に触れてみることにともに、近世小説史の流れをも追ってみたい。

## 近代文学

片岡 懋

国木田独歩、島崎藤村、夏目漱石の小説を中心に、明治30年代、40年代の文学の傾向について考察する。

## 英文学特講Ⅲ（詩19・20c.）

河崎 征俊

19世紀および20世紀の詩人について講義します。作品については、時々コピーを渡します。

〔教科書・参考書〕未定。

## 中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義校註』（汲古書院）¥3,000

## 英文学特講Ⅳ（小説Ⅰ 19c.）

中岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

## 英文学特講Ⅴ（小説Ⅱ 20c.）

飯島 淳秀

小説の問題を中心に現代英吉利文学の20世紀的諸相について講義をする予定。特定のテキストは用いない。参考文献はそのつど伝える。前期及び後期にそれぞれ課題レポート（即ち単位レポート）の提出が求められる。他に教場テストが行われるばあいもある。出席は重視される。

## 英文学特講Ⅰ（英文学16・17c.）

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』

（三修社）

## 英文学特講Ⅱ（英文学18c.）

小林 亨

18世紀の主要な散文作家5、6名を取り上げ、絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察する。講義だけでなく出来る限り作品に接することをこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

## 英文学特講Ⅵ（批評19・20c.）

丸小 哲雄

文学テキスト（作品）を批判的に検討する講義と実践。講義では19、20世紀の批評の流れを概説して、フランスやドイツの影響を受けている英米の現代批評を眺め直す。とりわけ、ロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、ポスト構造主義といった文学理論の基礎に力点をおく。テキストの実践では、英米及び日本文学からテキストを選び、読み（物語構成を把える視点のとり方）、解釈（隠された意味と主題を見つけること）、批評（集団の判断からテキストに抵抗すること）を論議する。楽しい知的サロンになることを願う。

〔教科書〕“A Reader's Guide to Contemporary Literary Theory” by Raman Selden (The Harvester Press, 1985)

〔参考書〕適宜に指示します。

## 英米演劇特講

落合和昭

今年度は、ギリシャ時代から現代にいたる劇場史を概観し、そのうち、劇の構成要素（プロット、登場人物など）を考察し、じっさいに、悲劇と喜劇における構成要素の働きをみることにする。また、時間が許せば、現代の演劇の思潮にも触れてみたい。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が数多く入っているアメリカの大学生用のテキストを用いる。課題としては、レポートを10回（1回につき、原稿用紙1、2枚程度）ほどを提出してもらおう。

## 米文学特講Ⅰ（詩）

東 雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。清教徒主義の内向性と開拓者精神の外向性を常に偏在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、Modernism とPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

〔教科書〕新倉俊一著『英詩の構造』（駿河台出版社）

〔参考書〕開講時に指示します。

## 米文学特講Ⅲ（小説Ⅱ）

山 縣 敏 夫

20世紀アメリカ文学、特に黒人作家やユダヤ系作家の作品をとりあげ、社会的変遷とのかかわりあいについて研究する。

## 時事英語

大 沢 一 雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass mediaすなわちマスコミで用いられる英語である。

## 地 質 学

小 池 一 之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』（東大出版会）¥3,400

〔参考書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）各¥3,400  
貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,200

## 気 候 学

中 村 和 郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。

〔教科書〕中村和郎・内嶋善兵衛・木村龍治『日本の気候』（岩波書店）

## 人口地理学

上 坂 修 夫

人口現象は、社会地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけではなく、質（構造）的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では、人文地理の諸分野で人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活用されなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

## 応用地理学Ⅰ

高 木 正 博

河川と地域の関係を、災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕大矢雅彦著『河川の開発と平野』（大明堂）  
山田安彦編著『地域の科学』（古今書院）

## 都市地理学

今朝洞 重 美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次『都市地理学』（大明堂）

## 文化地理学

荻口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

## 日本史特講Ⅶ（近代）

山口 一 之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

## 東洋史特講Ⅹ（近・現代）

渡 辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社（会党・帮会）をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕講義の中で紹介、指示する。

## 歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

## 哲学史

川 戸 好 武

古代ギリシャの哲学から現代哲学にいたる西洋哲学史を概説する。古代哲学はギリシャ時代－自然哲学と古典期の哲学（プラトン・アリストテレス）とヘレニズム・ローマ時代の実践哲学に分れる。中世哲学は教父哲学（最後の教父アウグスチヌス）とスコラ哲学－初期スコラ（アンセルム）、最盛期スコラ（トマス・アキナス）、晩期スコラ（W. オッカム）。近世哲学はルネッサンス期の哲学から始まり、17世紀構成的体系の哲学（デカルト・スピノザ・ライプニッツ）、18世紀啓蒙時代の哲学（イギリス、フランス）、カントの哲学とドイツ観念論（フィヒテ・シェリング・ヘーゲル）、現代哲学（生哲学、マルクス主義、現象学、プラグマティズム、分析哲学、実存哲学）。

〔教科書〕国嶋一則他著『西洋哲学の歴史』（公論社）  
¥3,200

〔参考書〕その都度指示する。

## 日本民俗学

渡 邊 欣 雄

本年度は日本各地に現在でもみられる饗宴の民俗に焦点をあてて、日本のみならず世界各地で行なわれている種類の風俗習慣について解説する。日本民俗学者は饗宴の語義からさまざまな起源論を展開してきた。宴（うたげ）とは柳田国男が唱えたように事の真相を打ち明けるウチアケだったのか、折田信夫が唱えたように客人を迎えるための拍手礼式たる拍ち上げ（ウチアケ）だったのか。はたまた大間知篤三の言うように事の終りを意味する打ち揚げ（ウチアゲ）だったのか。饗宴の語義論から象徴論まで拡大していくと、世界の至るところに客人を招いての共食儀礼が豊富にみられ、日本民俗との共飲の世界を垣間見ることができる。

〔教科書〕伊藤幹治・渡邊欣雄『宴（うたげ）』（弘文堂）¥1,500

## マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕竹内・児島編『現代マス・コミュニケーション』

ン論』（有斐閣）

川本 勝著『流行の社会心理』（勁草書房）  
¥2,300

## 産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、以下のような主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考えてみたい。

序. 産業社会学の生成、発展

1. 企業と経営組織
2. 職場の人間関係
3. 労働者の生活と意識
4. 労働組合
5. 労使関係
6. 産業と社会

〔教科書〕本間康平 他著『産業社会学入門』  
（有斐閣新書）¥700

## 都市社会学

文屋 俊子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献等は、授業の際に適宜紹介する。

## 社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

## ソビエト経済論

山縣 弘志

ソ連邦は第12次五ヶ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済70年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕講義の中で指示する。

## 社会政策

光岡 博美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表す言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕教場で指示する。

## 国民所得論

吉野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を變貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

## 中国経済論

小杉 修二

現代の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』  
(龍溪書舎) ¥3,000

## アジア経済論

小林 英 夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。Ⅰ. 賠償過程 Ⅱ. 借款過程 Ⅲ. 直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。参考書は、追って指示する。

## 日本経済史

古 庄 正

日本経済史の研究対象は広範であるが、本年度は産業革命期の諸問題を中心に講義してみたい。

### 講義要綱

- (1) 産業革命の本質と類型
- (2) 帝国主義世界体制の確立と経済政策
- (3) 産業革命の展開とその特質
- (4) 産業構造と外国貿易
- (5) 地主制の確立
- (6) 労働者階級の成立と初期労働運動
- (7) 植民地圏の確保と帝国主義への転化
- (8) 天皇制国家の確立
- (9) 独占段階への移行

〔参考書〕石井寛治『日本経済史』(東大出版会)  
¥1,900

## 中小企業論

三 井 逸 友

「中小企業」とは「マイナー」なものだという、日本の学生諸君に蔓延している『俗論』とは裏腹に、今や各国は挙げて国際的「中小企業フィーバー」の直中にある。その意味するところは何か、そして中小企業群の現実の存在とその状態はどのような理論的・現実的枠組から解明をされるべきなのか。ここでは、「分業関係の発展」と「競争と支配・管理」の展開を手掛かりとして、中小企業と大企業セクターとの経済的關係、中小企業群の集積と結合、「集中」と「過剰」のメカニズム、さらにこれらに対する「中小企業政策」の意味を解いていくことを講義のねらいとする。講義の中では、内外の豊富な話題・実態を盛り込んで説明していくつもりである。

〔教科書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』  
(有斐閣) ¥1,700  
車戸 實編『中小企業論』(八千代出版)  
¥3,200  
〔参考書〕中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕

## 教育経済論

谷 敷 正 光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本資本主義発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は戦後全体を、朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の産業教育要求とそれに対応した政府の経済政策、教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は産業教育政策として国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。教科書は下記の1.または2.のいずれでもよい。

〔教科書〕1. 豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』  
(東大出版)  
2. 『産業教育百年史』(ぎょうせい)  
〔参考書〕高浜介二『現代資本主義の発展と教育』  
(汐文社)  
石井公一郎『経営者からの教育改革案』  
(築地書房)  
加藤栄一『情報国富論—産学官協同への展望』  
(TBSプラタニカ)  
H・シュルスキー、溝川良一訳『産業社会の学校と教育』(有信堂)  
本庄良邦『産業教育体制論研究』(三和書房)  
『中教審と教育改革—財界の教育要求と中教審答申—』(三一書房)

## アメリカ経済論

瀬 戸 岡 紘

1987年度の私のアメリカ生活と研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカの生活様式、ほか)。とりわけ日本、ヨーロッパ、ソ連などと対比したばあいのアメリカの特質をうきばりにすることにつとめ、最終的にはアメリカ資本主義の世界史的地位をあきらかにすることを目標とする。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生は出席を遠慮されたい。なお一層ふかめて学習したい諸君には、私担当の原書講読をあわせて受講するようにすすめる。



## 財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いいかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をはたしており、利害関係者も増大してきて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動(情報)を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か(その社会的意味・役割)、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容、またとくに商法改正動向などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

なお、本講義は他学部、他学科に公開しており、経済学部その他、とくに経営学部、法学部の商法専攻者の履修を期待している。

## 管理会計論

中原章吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入って行く。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげて行く。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』(白桃書房)

〔参考書〕学年始めに指示する。

## 会計監査論

飯岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

さらに、時間が許せば、営業報告書、後発事象、粉飾決算、簡易監査などにも言及したい。

〔教科書〕飯岡 透著『株式会社社会計監査論』(創成社) ¥3,000

〔参考書〕飯岡 透編『会計監査基本規則集』(創成社) ¥800

## 商業政策

岩下 弘

流通産業に対する公共政策について講義する。

〔教科書〕久保村隆祐・吉村 寿編著『現代の流通政策』(千倉書房) ¥2,800

〔参考書〕その都度指示する。

## 貿易論

古沢 紘造

日本の穀物自給率は33%で先進工業国中最低ですが、日本の工業品の輸出攻勢に起因する対米貿易の不均衡を是正するという理由で農産物のさらなる輸入を要求されています。一方東南アジアなどの発展途上国からは、日本は一次産品を主に輸入するだけで工業品を買ってこないという不満の声が高まっています。本講義ではこうした現代の日本の貿易問題、対外経済問題について取り上げ、日本と世界(欧米、第三世界)の経済的かかわりを深く掘り下げて考えてみることにしたいと思います。

〔参考書〕授業の進度に合わせて、そのつど紹介したいと思います。

## マーケティング

曾我 信孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分

析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。

〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

## 原価計算論

加藤 利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕諸井勝之助著『原価計算講義』（東大出版会）

〔参考書〕津曲直躬著『原価計算論講義』（中央経済社）

## 労務管理論

石井 脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔教科書・参考書〕未定。

## 行政法Ⅱ

斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・营造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

## 民法Ⅳ(1)

青山 尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

## 民法Ⅳ(2)

青山 尚史

民法Ⅳ-(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粋身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

## 比較憲法

竹花 光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）
4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

## 地方自治法

梅 木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

## 経済法

江 上 勲

資本主義が高度化した段階の国民経済では、極度に多様化・分業化した機能を持つ経済主体間の調和は、古典的自由放任主義の経済政策によっては自動的に達成しがたくなる。経済法は、このような経済社会のなかで基本的に市場経済を維持しながら経済の流れに必要なに応じて国家が介入して全体の調和的発展をはかるための諸種の法から成る。本講座は、かかる経済法の中核をなす独占禁止法の意義を明らかにしたのち、その概要を説明する。講義に当っては基本的事項の理解に努める。

〔教科書〕江上 勲『経済法・独占禁止法概論』

(税務経理協会) ¥3,000

## 国際関係論

首 藤 素 子

最初に、20世紀になってから欧米諸国で関心の高まってきた国際関係研究の主要な研究史を概説する。

以後第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

〔参考書〕細谷千博・白井久和編『国際政治の世界』

(増補改訂版)(有信堂) ¥2,800

## 西洋政治史

浦 田 早 苗

「西洋の近代化はいかにしてなされたのか」という視点から18～20世紀初頭にかけてのイギリス、フランス、アメリカを中心に考察する。イギリス議会政治の発展、変貌過程、フランス市民政治の成立、変遷過程は特に関心をもってながめていきたい。

〔教科書・参考書〕開講後、追って指示する。

## 宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

## 比較社会構造論

江 上 勲

社会構造の概念は多様であるが、本講座は国民社会を構成する経済主体が機能的分業関係を持ちながらその間に発生する階級・階層関係のパターンであるとこれを理解し、第一部においては、資本主義機構のなかで新中間階級としてのホワイトカラーの発達を資本主義の安定化をもたらしていることを国際的・統計的に解明する。第二部においては、わが国の戦前の階級対立の発生原因と実情を回顧し、これと対比して戦後の民主化政策による階級対立の緩和と中間層意識の普及を実証的に明らかにする。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 経営学史

北 村 健之助

ドイツ経営経済学(前史、成立、1・2・3・4次方法論争、現代の経営経済学)およびアメリカ経営学(成行管理、科学的管理法、管理過程論、行動科学的展開)等々の発展過程を現代経営学を軸に探り、経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト、参考書は一応下記に示しましたが、必要があればその都度他の参考書もお薦めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一『図説 経営学』（学文社）

## 経営統計

後藤 儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用（例えば統計の品質管理、実験計画、線形計画等）されるかを、学習する。

〔参考書〕吉野・後藤『現代統計解析』（芦書房）

¥2,700

## 保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてははかにか各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭『リスク・マネジメントの基礎』

（白桃書房）¥2,500

## 財務会計論

久松 治夫

本年度は下記の教科書を使用し、財務会計の技術的構造、理論的構造および企業会計制度を講述する。なお、各論として資産会計、資本会計、損益会計および連結財務諸表をとりあげる予定である。

〔教科書〕新井清光著『財務会計論』（中央経済社）

¥2,600

〔参考書〕開講時に指示する。

## 経営分析論

片桐 伸夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析

3. 生産性分析

4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

## 税務会計論

高木 克己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、我々個人の日常的問題である所得税法についてもふれていくことにする。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

## 商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 国文講読Ⅰ（上代）

佐原 作美

『万葉集』を対象として講読を行なう。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』（桜楓社）

¥1,600

## 国文講読Ⅱ（中古）

鈴木 儀一

『清少納言枕草子』を読む。平面的解釈にとどまらずに、時代・社会の背景をも講述し、生き生きとした人間像をさがし求めて見たい。

〔教科書〕田中重太郎『校注・枕草子』（笠間書院）

¥1,300

〔参考書〕適宜に指示する。

### 国文講読Ⅲ（中世）

岡崎 正

中世室町期に完成した演劇である能の詞章「謡曲」を読む。「謡曲」は先行文芸の粋をあつめ、そして後代文芸に大きな影響を与えた。いわば日本詩華の集散地のような位置にあった。謡曲を読むことによって劇文芸（戯曲）としての構造や、その文芸的価値を探る。

〔教科書〕古川 久・小林 責編『謡曲・狂言集』  
（校注古典叢書）（明治書院）

### 国文講読Ⅳ（近世）

清田 啓子

井原西鶴の作品の中から、モデル小説とされる「婉久一世の物語」「嵐は無常物語」を読む。豪商と歌舞伎役者と、当時のなやかな存在を題材にして、西鶴がどのように自分の作品となしたかを考え、また当時の社会状況も見渡したい。

〔教科書〕岡本隆雄編『婉久一世の物語・嵐は無常物語』  
（桜楓社）¥1,800

### 国文講読Ⅴ（近・現代）

大室 英爾

近代詩のなかから主に透谷、藤村、独歩、晚翠、泣童、有明らの作品を取りあげる。作品を丹念に読み、詩史上の流れや傾向を検討しつつ鑑賞を深めたい。

〔教科書〕各種文庫及びプリントを使用。授業開始時に指示。

### 国文講読Ⅴ（近・現代）

田澤 英藏

森鷗外の作品を読む。鷗外の文芸における営為の大概を理解するために適当と思われる作品を選ぶ。

〔教科書〕授業開始の時に指示する。

### 国文特講Ⅴ（近・現代）

尾形 国治

明治期の作家としては、坪内逍遙、二葉亭四迷、森鷗外、北村透谷、島崎藤村、夏目漱石、正宗白鳥、大正期では有島武郎、芥川龍之介などの代表作を読む。現代の

作家では井伏鱒二、三浦哲郎のほか、戦後生まれの宮本輝、村上春樹、村上龍などを予定している。数少ない作品をじっくりと読んでみたいと考えている。

プリントを用意する。

〔教科書〕各種文庫本

### 英文タイプライティングⅡ

竹内 美恵子

キーボードの基本操作（ブラインドタッチ）を習得していることを前提として、レター及び各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。さらにプリントしたものを原稿として一定の時間内に浄書処理ができるように授業をすすめていきます。

テキストは教場で指示します。なお、授業で基礎実技の指導はいたしません。

### 時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除していただくこと。

〔教科書〕テープ使用。

### 計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ（PC-9801）による実習

〔教科書〕戸川隼人著『PC-9801 BASIC』

（サイエンス社）¥2,200

## 臨床放射線特論 I

本 間 襄

医療特に臨床にかかわる者の常識として、また医療人相互のコミュニケーションと診療録の内容を理解するのに欠かせない外来医学用語・技術用語・略称について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

## 応用計測学

檀 尾 英 治

X線CT装置，MRI装置および核医学装置（ガンマカメラ，シングルホトンCT，ポジトロンCT）を中心とした医用機器のハードウェア，ソフトウェアについて概説する。また，超音波装置，CRならびにPACS等についても講述する。



# 教職および資格講座

教 職 課 程  
学校図書館司書教諭講座  
社会教育主事講座  
博物館学講座  
社会福祉主事 講座  
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。  
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事 社会福祉士基礎 講座	全 学 部



# 講義内容目次

## I 教職課程

### (1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(磯野 昌蔵) .....	1
教育原理(上岡 安彦) .....	1
教育原理(北村 三子) .....	1
教育原理(坂本 信昭) .....	1
教育原理(村山 輝吉) .....	1
教育心理学(大浜 幾久子) .....	1
教育心理学(改田 明子) .....	2
教育心理学(国眼 眞理子) .....	2
教育心理学(中村 均) .....	2
教育心理学(難波 和明) .....	2
青年心理学(大浜 幾久子) .....	2
青年心理学(川田 三夫) .....	2
青年心理学(岸本 弘) .....	2
青年心理学(牟田 悦子) .....	2
宗教科教育法(松本 皓一) .....	3
国語科教育法(神谷 道倫) .....	3
書道科教育法(谷村 義雄) .....	3
英語科教育法(大沢 一雄) .....	3
社会科教育法(川合 元彦) .....	3
社会科教育法(中島 義一) .....	3
社会科教育法(野呂 肖生) .....	3
社会科教育法(長谷部 八朗) .....	3
社会科教育法(谷敷 正光) .....	4
社会科教育法(大久保 治男) .....	4
社会科教育法(橋爪 敏) .....	4
職業科教育法(谷敷 正光) .....	4
商業科教育法(谷敷 正光) .....	5
道德教育の研究(上岡 安彦) .....	5
教育実習(上岡 安彦) .....	5
教育実習(北村 三子) .....	5
教育実習(坂本 信昭) .....	5
教育実習(村山 輝吉) .....	6

### (2) 教職に関する専門科目(選択)

教育史(磯野 昌蔵) .....	6
教育哲学(汐見 稔幸) .....	6
宗教教育(櫻井 秀雄) .....	6
教育社会学(熊谷 一乘) .....	6
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乘) .....	7
教育評価(大浜 幾久子) .....	7
教育情報学(難波 和明) .....	7
教育調査(鈴木 則夫) .....	7
教育関係法規(荒牧 重人) .....	7
教育法規研究(浪本 勝年) .....	7
社会教育の基礎(社会教育概論)(磯野昌蔵) .....	13
社会教育施設(村山 輝吉) .....	14
図書館学 I(山崎 慶子) .....	12
図書館学 II(源 昌久) .....	12
児童文化(湯山 厚) .....	8

青少年問題研究(和田 謙寿) .....	8
視聴覚教育(赤堀 正宜) .....	10

### (3) 教科に関する専門科目

#### 【社会】

日本史概説(大久保 俊昭) .....	8
日本史概説(宮本 由紀子) .....	8
世界史概説(中村 道雄) .....	8
世界史概説(渡辺 惇) .....	8
地誌学概説(今朝洞 重美) .....	9
地誌学概説(長野 寛) .....	9
地誌学概説(宮口 侗迪) .....	9
人文地理学概説(小林 高壽) .....	9
自然地理学概説(早船 元峰) .....	9
民法 I(山本 豊) .....	9
政治学原論(上條 末夫) .....	9
政治学原論(福岡 政行) .....	9
社会学原論(渡辺 源樹) .....	10
経済原論(小野 俊夫) .....	10
哲学特講 I(東洋)(篠原 壽雄) .....	10
哲学特講 II(西洋)(國嶋 一則) .....	10
哲学特講 III(西洋)(久保 陽一) .....	10
宗教学特講 I(松田 文雄) .....	10
宗教学特講 II(脇本 平也) .....	10
宗教学特講 III(洗 建) .....	10

#### 【職業】

産業概説(前田 幸一) .....	11
職業指導(山田 勇治) .....	11
商業実習(前田 幸一) .....	11

#### 【商業】

職業指導(山田 勇治) .....	11
-------------------	----

## II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I(山崎 慶子) .....	12
図書館学 II(源 昌久) .....	12

## III 社会教育主事講座

### (1) 必修科目

社会教育の基礎(社会教育概論)(磯野昌蔵) .....	13
社会教育計画(村山 輝吉) .....	13
社会教育実習(磯野 昌蔵) .....	13
社会教育実習(上岡 安彦) .....	13

### (2) 選択必修科目

児童文化(湯山 厚) .....	8
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乘) .....	7
成人学習論(長澤 成次) .....	13
婦人問題と社会教育(矢口 悦子) .....	14
青少年問題研究(和田 謙寿) .....	8
青少年指導演習(和田 謙寿) .....	14

社会教育行政(長澤 成次) .....	14
社会教育施設(村山 輝吉) .....	14
図書館学Ⅰ(山崎 慶子) .....	12
博物館学Ⅰ(倉田 芳郎) .....	16
博物館学Ⅱ(矢島 國雄) .....	16
企業内教育・職業訓練(塩川 正人) .....	14
社会体育Ⅰ(古田 潤子) .....	15
社会体育Ⅱ(古田 潤子) .....	15
視聴覚教育(赤堀 正宜) .....	16
教育原理 .....	(1)
教育史(磯野 昌蔵) .....	(6)
教育心理学 .....	(1)(2)
青年心理学 .....	(2)
社会心理学(坪井 健) .....	15
教育社会学(熊谷 一乗) .....	(6)
教育調査(鈴木 規夫) .....	(7)

児童福祉論(前期)(高橋 重宏)	
(後期)(許斐 有) .....	20
社会保障論(近藤 功) .....	20
公的扶助論(伊藤 秀一) .....	21
地域福祉論(永田 幹夫) .....	21
心理学(福祉)(井上 孝代) .....	21
社会学(福祉)(星野 貞一郎) .....	21
法学(福祉)(小林 弘人) .....	21
社会福祉援助技術現場実習	
(老人福祉施設・機関等)(東條 光雅) .....	21
社会福祉援助技術現場実習	
(障害児(者)施設・機関等)(伊藤 秀一) .....	21

※ ( ) 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

#### IV 博物館学講座

##### (1) 必修科目

博物館学Ⅰ(倉田 芳郎) .....	16
博物館学Ⅱ(矢島 國雄) .....	16
教育原理 .....	(1)
社会教育の基礎(社会教育概論)(磯野昌蔵) .....	13
視聴覚教育(赤堀 正宜) .....	16
博物館実習Ⅰ(館務)(倉田芳郎・太田喜美子)	
.....	16
博物館実習Ⅱ(収集)(倉田芳郎・所 理喜夫・	
葉貫磨哉・太田喜美子)	
.....	16
考古発掘実習(寺社下 博) .....	17
博物館実習Ⅲ(見学)(倉田芳郎・太田喜美子) 17	

##### (2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ(廣瀬 良弘) .....	17
印度仏教文化史(奈良 康明) .....	17
西洋文化史Ⅲ(三小田 敏雄) .....	17
仏教美術(林 良一) .....	17
現代美術(宮崎 克己) .....	17
禅美術(海老根 聰郎) .....	18
美術史概説(林 良一) .....	18
西域美術史(林 良一) .....	18
考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎) .....	18
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次) .....	18
考古学特講Ⅱ(高浜 秀) .....	18
考古学特講Ⅳ(飯島 武次) .....	18
日本民俗学(渡邊 欣雄) .....	18
仏教民俗学(和田 謙寿) .....	18
宗教人類学(佐々木 宏幹) .....	19

#### 社会福祉主事

#### V 講座

##### 社会福祉士基礎

社会福祉原論(伊藤 秀一) .....	20
老人福祉論(東條 光雅) .....	20
障害者福祉論(原田 信一) .....	20

# I 教 職 課 程

## (1) 教職に関する専門科目 (必修)

### 教育原理

磯野昌蔵

教育とは何か  
中等教育の歴史と問題  
学校教育の役割

3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート  
(エイデル研究所) ¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』(学芸図書)  
¥950  
デュイ著、宮原誠一訳『学校と社会』  
(岩波文庫) ¥200

### 教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。  
次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として  
教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を  
身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』(上・中・下)(岩波文庫)  
上 ¥550, 中 ¥500, 下 ¥500

### 教育原理

村山輝吉

主に下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発  
達と教育、文化、社会の関わりについて原理的考察をお  
こない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法の持つ  
意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』(全10巻)(国土社)  
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

### 教育原理

北村三子

前半は、自分達が経験してきた学校教育の性格をより  
広い視野から捉え直すことをめざす。後半は、『エミ  
ール』を手掛りに、近代人の自己疎外の深さに思いを至し、  
ルソーとともにありうべき教育像を模索する。

〔教科書〕ルソー『エミール』(岩波文庫)  
上 ¥550, 中・下 ¥500

### 教育心理学

大浜幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など  
現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわる  
ものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の  
現場の様々な問題をとりあげ、教育心理学的な考え方と、  
それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。  
また知能テストなどの実習も行う。

### 教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考え  
ていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達

## 教育心理学

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習する。また、必要に応じて、心理検査などの実習を行なう。

〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

## 青年心理学

大 浜 幾 久 子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

## 教育心理学

国 眼 眞 理 子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

〔教科書〕磯貝芳郎編著『教育心理学の世界』

(福村出版) ¥1,800

## 青年心理学

川 田 三 夫

今も昔も青年(期)をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけにとどまらず、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本人的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

〔教科書〕磯貝芳郎・福富 護・川田三夫『現代青年』(ブレーン出版) ¥1,200

## 教育心理学

中 村 均

1. 発 達  
子どもはどのように大人になるか。
2. 学習と学習指導  
どのような仕組みで学習は起こるのか。学習を促進させるにはどうしたらよいのか。
3. 知能・学力・創造性
4. 人 格  
一人一人の違いはどうとらえればよいか。
5. 適 応
6. 学級集団  
学級集団はどのような役割を果たすのか。
7. 教育評価

## 青年心理学

岸 本 弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。

〔教科書〕『青年心理学』(くろしお出版) ¥2,300

〔参考書〕『思いやりの動機と達成動機』(学文社) ¥4,600

## 教育心理学

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいたした授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。  
〔教科書〕その都度指示する。

## 青年心理学

牟 田 悦 子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考へながら、青年期の様々な特徴を見ていく。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考へ、自分なりの判断力をもつこともこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学—青年心理学』(学文社) ¥1,000

## 宗教科教育法

松本 皓一

宗教科教授法としての理論と実践上留意すべき諸問題を述べる。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕随時必要に応じて指示する。

## 国語科教育法

神谷 道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥1,200

## 書道科教育法

谷村 義雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いたずら授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探究する内容にしたい。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

## 英語科教育法

大沢 一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような授業法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

## 社会科教育法（地理）

川合 元彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地理科）についてもとりあげる。

また、指導案の具体的な作成も行なう。

〔参考書〕川合元彦著『生活の場の見方・考え方―地理教育演習―』（古今書院）

## 社会科教育法（地理）

中島 義一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕山崎謹哉『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,200

## 社会科教育法（歴史）

野呂 肖生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

## 社会科教育法

長谷部 八朗

教育をめぐるさまざまな今日の課題にもふれながら、社会科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科の性格、目標、歴史などを検討し、後期では、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった具体的なテーマをとりあげる予定である。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。  
〔教科書・参考書〕適宜指示する。

## 社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕梶 哲夫『中等 社会科教育研究(1)』

（高陵社）

遠山 啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）

〔参考書〕矢川徳光『教育とは何か』（新日本出版新書）  
無着成恭『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、  
中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ず  
ファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。  
視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

## 社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法により効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）

各自が使用した社会関係の教科書。

## 社会科教育法

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の形成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、それも、現実の政治的状况のなかで紆余曲折し、また現在、再編が企図されつつある。そこで、社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言ってよからう。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 職業科教育法

谷 敷 正 光

この免許の「職業科」（職業・家庭科）は、1958年に学習指導要領の改訂によって、「技術科」（技術・家庭科）が新設され、「技術科」が必修となり、これまで必修であった「職業科」は選択科目となり、現在に至っている。職業科目のことを先の中学校学習指導要領では、「農業、工業、商業、水産」と明記されていたが、今回の改訂により、「第2章第10節に示すその他特に必要な教科」となっている。

ところで、必修を従来の「職業科」から「技術科」へ変えた際、職業科担当教員に対して「職業」免許の「技術科」免許への切りかえを完全に行なわなかったため、「技術科」の教員の中には、「職業」の免許で担当している人もかなりいる。中学校社会科の教員採用が厳しくなっており、「職業」の免許も生きる可能性があるので、教員志望者は、「社会」と併わせて履修することが望しい。

本講は、民主的で文化的な平和国家建設のための基礎的職業教育、人格の尊厳と人間の全能力の発達を中心とした人間形成のための職業教育を中心に授業を展開する。

〔教科書〕授業で、必要な教材を配布するので特に用意する必要はない。

〔参考書〕『講座現代技術と教育 8 技術教育の歴史と展望』（帝国地方行政学会）

近藤大生『職業と教育』（福村出版）

## 商業科教育法

谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう、商業教育は大きく軌道修正され、さらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保が困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている（67年11月）ので、しっかり勉強して欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）

矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』

（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）

神田 修『学校からみた教育政策』（有斐閣）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

## 道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（改訂版）（学芸図書）¥750

## 教育実習

上 岡 安 彦

### 事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

### 訪問指導

実習期間の研究授業参加

### 事後指導

デュイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）

¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）

¥300

デュイ『学校と社会』（岩波文庫）¥300

## 教育実習

北 村 三 子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

## 教育実習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成・提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』（共文社）

¥480

田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート

（エイデル研究所）¥1,800

## 教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態を進めていく。

## (2) 教職に関する専門科目（選択）

### 教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

### 教育哲学

汐見稔幸

中学生が自分の両親と祖母をメッタ刺しにして殺害する——そういうことがどうして「可能」なのか。この子はそこまで「追いつめ」られていたのか、それともふとした気分の変化で親すらも殺せるほどに現実と非現実の境い目がアイマイになってきつつあるのか。この子の心情はうすめられた形ですべての子どものものとなっているのか。それともこの世代のこの子のようなタイプの子に特有なのか。教育は一体何をすればよいのか。——そういうことをいっしょに考えてみませんか。12歳で自死をとげた岡真史君の詩集やささまざまなルポ・手記などを手掛りに、子どもの考現学を参加者といっしょに追求してみたいと思います。

- 〔参考書〕岡 真史『ぼくは12歳』（筑摩文庫）  
杉本 治『マー先のバカ』（青春出版）  
山崎 哲・芹沢俊介『子どもの犯罪と死』（春秋社）など。

### 宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

- 〔教科書〕日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」  
編『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版）  
1985.10 ¥5,800

### 教育社会学

熊谷一乗

登校拒否、偏差値支配、家庭内暴力などの教育をめぐる問題は、教育と社会との密接な関係のなかで発生してきている。重要な社会問題として注目されている教育上の諸問題をどう解決したらよいか、という問題意識のもとに、教育と社会との関係、教育の社会的過程を明らかにする。講義で扱われるテーマは、次のとおりである。  
①人間の発達と社会的環境 ②集団と教育 ③教育と政治・経済との関係 ④教育と地域社会 ⑤学校と子どもの生活

- 〔教科書〕熊谷一乗『子どもの発達と社会—教育社会学の基礎』（東信堂）¥2,700



## 現代社会の諸問題と教育

熊谷 一 乗

現代の社会は、技術の革新、高度化にともなって激しく変化し、益々複雑化し、しかも緊急に解決を要する難問を次ぎから次ぎに引き起こしている。こうした社会の動向と問題は、教育の在り方に強く影響し、教育に新たな対応を迫ってくる。講義では、次ぎのようなテーマを設定して現代社会を特徴づける諸問題と教育との関係を検討する。

- (1)ハイテク化と教育 (2)情報化と教育 (3)国際化と教育
- (4)高齢化と教育 (5)環境問題と教育 (6)人権問題と教育
- (7)女性の職場進出と教育 (8)競争社会(自由化)と教育
- (9)社会変動と教育改革

〔教科書〕講義要旨および資料のコピー配布。

〔参考書〕教室で指示。

## 教育 評 価

大 浜 幾 久 子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまづきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人々がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕ピアジェ、秋枝茂夫訳『教育の未来』

(法政大学出版局) ¥1,300

## 教育情報学

難 波 和 明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

## 教 育 調 査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な

基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

## 教育関係法規

荒 牧 重 人

現在さまざまな形態で生じている教育問題を視野に入れながら、憲法・教育基本法・学校教育法を中心にして、教育関係法規を概説します。学習指導要領、教科書、体罰、校則、研修、職員会議その他、教師になったときに直面するであろう教育法上の今日の問題も考察します。

〔参考書〕『解説 教育六法』〔平成元年版〕(三省堂)

## 教育法規研究

浪 本 勝 年

現代の学校教育は、公的な制度によって高度に組織化されている。したがって、学校をよりよく理解するためには、どうしても教育に関する法規についての学習が不可欠となる。特に今年度は、「初任者研修法」が実施され、教員養成問題は、新たな事態を迎えている。

この時間は、これから教職をめざす学生諸君が、ぜひとも身につけておくべき教育法規の基礎知識の修得に力点を置いて研究を進める。その際、昨年問題となった臨教審関連六法(案)や今年予想されている教科書訴訟の判決の分析、さらには現実の教育政策の動向(中教審などを含む)にも注目しつつ学習する。したがって、結果として教員採用試験(選考)にも大いに役立であろう。

〔教科書〕(開講時に示す)

〔参考書〕全国教員養成問題連絡会編『初任者研修法と教免法』(あゆみ出版) ¥1,500

兼子 仁・神田 修編『教育法規事典』

(北樹出版) ¥2,000

## 社会教育の基礎(社会教育概論)

(P.13) 参照

## 社会教育施設

(P.14) 参照

## 図書館学Ⅰ

(P.12) 参照

## 図書館学Ⅱ

(P.12) 参照

## 児童文化

湯山 厚

児童文化とはなにかとか、その史的変遷とか、ないしはこれからのあり方は、といったふうに児童文化一般ではなく、現に身近にある名作物の絵本の主人公や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公教育との関係——といった視点からとらえなおし、子どもをとりまく環境の一部をなしている文化財を見なおすいとぐちとする。

〔参考書〕『日本唱歌集』（岩波文庫）¥450  
木下順二・文『かにむかし』（岩波書店）  
¥1,400  
H. A. レイ・光吉夏弥訳『ひとまねこざる』  
（岩波書店）¥1,300

### (3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

#### 【社会】

### 日本史概説

大久保 俊昭

日本史のなかで、とくに中世をテーマとして、政治史・経済史などを中心に検討してみたい。参考書等未定。

### 日本史概説

宮本 由紀子

通史を概観しつつ、各時代の女性の社会における地位や生き方を検討する。特に教職科目ということもあり、基礎的かつ具体的な内容に留意する。講義はノート中心とし、教科書の指定はない。

## 青少年問題研究

和田 謙寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際の面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をみつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』（全防連）  
¥1,200

## 視聴覚教育

(P.16) 参照

## 世界史概説

中村 道雄

主にヨーロッパおよびアメリカ世界の歴史を概説する。参考書にはこの外、高校の世界史教科書も利用される。

〔教科書〕衣笠・田村・中村・廣實『概説西洋史』  
（東京創元社）

〔参考書〕帝国書院編集部編『詳密世界史地図』  
（帝国書院）  
亀井・三上・林・堀米編『世界史年表』  
（吉川弘文館）

## 世界史概説

渡辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれ

れの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

### 地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

### 地誌学概説

長 野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

### 地誌学概説

宮 口 侗 廸

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。教科書は特に使用せず、参考書は講義中に紹介する。

### 人文地理学概説

小 林 高 寿

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理学は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕長谷川典夫『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店地理統計。

### 自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

### 民法 I

山 本 豊

民法財産法の前半部分、すなわち民法総則と物権法についての概論的講義を行う。具体例や判例をできるだけ多く取り上げて説明するつもりであるが、受講に際しては、予めテキスト等で予習をしてくることを期待したい。参考書等は開講時に指示する。

〔教科書〕好美清光・米倉 明編『民法読本1』（有斐閣）¥1,600

### 政治学原論

上 條 末 夫

国家および権力を中心として、政治の本質を解明することに主眼をおき、随時、時事問題も取り上げて、生きた政治学を講義したい。

〔教科書〕上条末夫ほか『基礎政治学』（北樹出版）

### 政治学原論

福 岡 政 行

本講座は政治学全体の理論的位置づけを行うもので、多角的に分析を行う。

行政国家＝福祉国家＝大衆社会という今日状況の下で、議会デモクラシーをどのように理解するのかが重要なポイントになる。システム分析・文化論的アプローチ・社会化理論などを中心に、前期は理論的分析を中心に行う。

後期は、政治学のかかえる今日的課題について、応用科学としての政治学原論と考へ、講義を進めてゆく。

## 社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

## 経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕開講の際に指示する。

## 哲学特講Ⅰ（東洋）

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかななどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『荘子』〔内篇冊〕（中公文庫）

## 哲学特講Ⅱ（西洋）

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕その都度示す。

## 哲学特講Ⅲ（西洋）

久 保 陽 一

デカルト以来の主観-客観図式や人間中心主義とりわけ意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の合言葉となっているかのように見える。しかし意識を言語や実存や行為や無意識等で置き換えるだけで、人間の自己認識の問題が解消するわけではない。この問題については、カントからヘーゲルにいたるドイツ古典哲学から尚ぶべきものが多い。前期ではカントの道徳哲学について、後期ではヘーゲルの「人倫」の思想や宗教哲学について取り上げることにしたい。

〔参考書〕カント『道徳形而上学原論』（岩波文庫）

ヘーゲル『初期神学論集』〔Ⅰ・Ⅱ〕

（以文社）、ヤメ・ペゲラー編『ヘーゲル・

ヘルダーリンとその仲間』（公論社）

## 宗教学特講Ⅰ

松 田 文 雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕随時指示する。

## 宗教学特講Ⅱ

脇 本 平 也

——宗教学説史——経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

昨年度の統講となる。

参考文献をその都度指示する。

## 宗教学特講Ⅲ

洗 建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係について考察する。

〔参考書〕適時指示する。

## 【職業】

### 産業概説

前田幸一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、各産業についてその特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』

(有斐閣)

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』

(東洋経済新報社)

### 職業指導

山田勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』(創成社)

¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』(福村出版) ¥1,500

### 商業実習

前田幸一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

## 【商業】

### 職業指導

(P.11) 参照

## II 学校図書館司書教諭講座

### 図書館学 I

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めるようにしたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』  
(学芸図書)

### 図書館学 II

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法(分類法・目録法)について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕日本図書館協会分類委員会改訂(編集)

『日本十進分類法 新訂8版』

(日本図書館協会)

日本図書館協会目録委員会編

『日本目録規則1987年度版』

(日本図書館協会)

### Ⅲ 社会教育主事講座

#### (1) 必修科目

##### 社会教育の基礎 (社会教育概論)

磯野昌蔵

社会教育とは何かを次の諸点から検討する。

- 社会教育制度
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

##### 社会教育実習

磯野昌蔵

実習前の指導

実習

実習後・社会教育の実際について検討

##### 社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

〔教科書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』  
(学文社) ¥2,000

##### 社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し, 日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』

(全日本社会教育連合会) ¥750

ジェルピ『生涯教育』(東京創元社)

¥1,500

#### (2) 選択必修科目

##### 児童文化

(P. 8) 参照

##### 現代社会の諸問題と教育

(P. 7) 参照

##### 成人学習論

長澤成次

今日, 我が国における生涯学習論の一環としての成人学習論は, 生涯にわたる自己教育への権利の観点から積

極的に構想されなければならないと同時に, 臨教審教育改革のもとでの「生涯学習」概念の矛盾的性格も明らかにするものでなくてはならない。

本講は, 「学習権なくしては, 人間の発達はいりえない」とした第4回パリ国際成人教育会議の「学習権」宣言採択(1985年)の国際的動向もふまえて, 成人学習論の今日的到達点と課題を明らかにする。なお, 今, 各地で実践されている自分史・生活史学習にも触れる。

〔参考書〕 小川利夫編『生涯学習と公民館』

(亜紀書房) 1987年

横山 宏編『成人の学習としての自分史』

(国土社) 1987年

原 輝恵・野々村恵子編『学びつつ生きる女性』(国土社) 1988年

藤田秀雄編『平和学習入門』(国土社)

1988年

## 婦人問題と社会教育

矢口悦子

婦人問題の解決にむけて社会教育はこれまでどのような活動を展開してきたのか、今後何をなすべきかを明らかにしたい。特に、学習者の婦人問題への認識の深まりを軸として進められる婦人問題学習の事例を紹介する。それを通じて、皆さん自身の意識や状況についても考えていただきたいと思っている。

〔参考書〕必要に応じて提示する。

## 青少年問題研究

(P. 8) 参照

## 青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

## 社会教育行政

長澤成次

戦後社会教育行財政の基本を憲法・教育基本法そして社会教育法の構造的連関のもとで把えると共に、国民の学習・文化・スポーツ権を生涯にわたって保障する社会教育行財政の今日的課題を考察する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕社会教育推進全国協議会編『改訂 社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）1984年  
小川利夫編『社会教育の法と行政』（講座現代社会教育IV）（亜紀書房）1987年

## 社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』

〔講座・現代社会教育 第6巻〕（亜紀書房）

## 図書館学 I

(P. 12) 参照

## 博物館学 I

(P. 16) 参照

## 博物館学 II

(P. 16) 参照

## 企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業は人なり」と言われます。企業が今取り組んでいる最重要戦略のひとつが「企業人教育」です。その理由は、嵐の時代ともいえる現代を生き抜く道は、人づくりなしにありえないからです。

本講義は、各種の企業のさまざまな人の育て方を、実証的に学び、学生諸君に企業の生きた姿を紹介します。

講師自身が経営教育コンサルタントとして、今実践している企業人教育の事例と理論を生かし、大学と企業の間を橋をかける講義を、討論や対話も入れて展開します。

〔教科書〕塩川正人著『MTS 総力経営』（日本能率協会）¥1,000



## 社会体育 I

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育 I・II」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕野口三千三『原初生命体としての人間』

(三笠書房) ¥980

## 社会体育 II

古田潤子

人間の動きと道具との関係。

動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

## 視聴覚教育

(P.16) 参照

## 教育原理

(P.1) 参照

## 教育史

(P.6) 参照

## 教育心理学

(P.1・2) 参照

## 青年心理学

(P.2) 参照

## 社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的とした。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』

(人間の科学社)

## 教育社会学

(P.6) 参照

## 教育調査

(P.7) 参照

## IV 博物館学講座

### (1) 必修科目

#### 博物館学 I

倉田 芳 郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

#### 博物館学Ⅱ

矢島 國 雄

博物館は近代西欧に起源をもつ社会教育機関である。「文化」と「生涯教育」の重要性の叫ばれる今日、博物館に期待される役割は重いものがある。

本講義では「博物館とは何か」、「博物館の専門的職員としての『学芸員』の使命と役割は何か」という問題を中心的な課題とし、あわせて博物館の現状と問題点について触れながら、あるべき博物館像をともに考えたい。受講生諸君には講義と平行して、できるだけ多くの博物館を自分自身の眼で見ることをお願いしたい。

〔教科書〕倉田公裕著『博物館学』（東京堂出版）  
¥2,500

#### 教育原理

(P. 1) 参照

#### 社会教育の基礎（社会教育概論）

(P. 13) 参照

#### 視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータ通信等のニューメディアの利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

#### 博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳 郎・太田 喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

#### 博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳 郎・所 理喜夫  
葉 貫 磨 哉・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

## 考古発掘実習

博 社 下

野外における考古発掘実習を行なう。30日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

〔教科書〕文化庁文化財保護部『埋蔵文化財発掘調査の手びき』（財国土地理協会）

## 博物館実習Ⅲ（見学）

倉 田 芳 郎・太 田 喜 美 子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

## (2) 選択必修科目

### 日本文化史Ⅰ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、中世から近世にかけての文化について詳述する。その際には絵巻物等の分析をも試みたいと思う。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

ているかを、図版などで確かめ建築・遺跡を調べて、神話・宗教と文化の関係や後世への影響を総合的に研究する。そのために歴史の知識・神話の知識は必須である。参考文献はその都度指示する。

〔教科書〕秀村・伊藤『ギリシアとヘレニズム』

〔世界の歴史2〕（講談社文庫）

ブルフィンチ『ギリシア・ローマ神話』

（岩波文庫）

### 印度仏教文化史

奈 良 康 明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明『仏教史Ⅰ-インド、東南アジア』（山川出版社）

奈良康明『釈尊との対話』（NHKブックス）

### 仏教美術

林 良 一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。なお、後期に図像学の講義を補説する。

〔教科書〕林 良一著『ガンダーラ美術紀行』

（時事通信社）¥2,200

〔参考書〕林 良一著『シルクロード』（時事通信社）

### 現代美術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

### 西洋文化史Ⅲ

三小田 敏 雄

本年度は西洋文化の原点であるギリシア文化を取り上げる。とくにギリシア神話が芸術にどのように表現され

## 禅美術

海老根 聰 郎

日本の中世時代（鎌倉、南北朝、室町時代）の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。（毎回スライドを使用する。）

## 美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 西域美術史

林 良 一

アフガニスタンより東西のトルキスタンにいたる西域美術を、仏教美術の東伝を中心に、各地の遺跡および遺品について講述する。現地の遺構や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕林 良一著『ガンダーラ美術紀行』

（時事通信社）¥2,200

〔参考書〕林 良一著『シルクロード』（時事通信社）

## 考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

## 考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕江上波夫監修『考古学ゼミナール』

（山川出版社）1976年 ¥2,800

## 考古学特講Ⅱ

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オールドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。講義では、これらの文化を概観する。

## 考古学特講Ⅳ

飯 島 武 次

殷周文化考古学研究。

## 日本民俗学

渡 邊 欣 雄

本年度は日本各地に現在でもみられる饗宴の民俗に焦点をあてて、日本のみならず世界各地で行なわれている類種の風俗習慣について解説する。日本民俗学者は饗宴の語義からさまざまな起源論を展開してきた。宴（うたげ）とは柳田国男が唱えたように事の真相を打ち明けるウチアケだったのか、折田信夫が唱えたように客人を迎えるための拍手礼式たる拍ち上げ（ウチアケ）だったのか。はたまた大間知篤三の言うように事の終りを意味する打ち揚げ（ウチアゲ）だったのか。饗宴の語義論から象徴論まで拡大していくと、世界の至るところに客人を招いての共食儀礼が豊富にみられ、日本民俗との共飲の世界を垣間見ることができる。

〔教科書〕伊藤幹治・渡邊欣雄『宴（うたげ）』

（弘文堂）¥1,500

## 仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとしては是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言えよう。

- 〔教科書〕和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』  
（仏教民俗研究会発行）¥2,300
- 〔参考書〕和田謙寿著『仏教の地域発展』  
（仏教民俗研究会発行）¥2,900

## 宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム，アニマティズム，シャーマニズム，妖術，邪術，死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに，これら諸形態が，日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

- 〔参考書〕佐々木宏幹『シャーマニズム』（中央公論社）  
¥520

# V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

## 社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）  
¥1,500

## 老人福祉論

東條 光雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想されるが、これに対処すべき老人福祉施策はまだ不十分な状況である。わが国においては、約半世紀後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』（海声社）¥1,400

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1988』（全社協）¥2,600

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 昭和63年度版』（老人福祉開発センター）¥3,500

## 障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤において正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって

惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』（改訂版）（有斐閣）

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』（高文堂）

(2)原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）

## 児童福祉論

(前期) 高橋 重宏  
(後期) 許斐 有

現代社会における児童をめぐる社会的諸問題、児童福祉の概念、児童福祉の歩み、法律による児童福祉（児童福祉法等）、自発的な児童福祉活動、運動等について概説し、児童福祉サービスの現状と、現代的課題について、一応の体系的理解ができるようにつとめたい。

〔教科書〕高橋重宏・江幡玲子編著『児童福祉を考える』（川島書店）¥1,700

山根常男監修、本村 汎・高橋重宏編

『家族と福祉の未来』（全国社会福祉協議会）  
¥2,000

〔参考書〕全国社会福祉協議会編『1986・87年度版児童福祉年報』（全国社会福祉協議会）¥2,300

## 社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔教科書〕小沼 正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕開講時に指示する。

## 公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

## 地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』  
(全国社会福祉協議会) ¥2,000

## 心理学(福祉)

井上 孝代

さまざまな心理的、社会的条件を有する個人と環境との相互作用に関する基礎的知識、および個人が社会環境との間により良い適応をもたらすに必要な具体的方法について講義する。

内容については、心理的、社会的問題の解決にあたって、地域社会の資源の活用などの環境的要因のみならず、クライアントのパーソナリティや動機、情緒的ニードといった人間行動の心理的要因や対人関係における技法—ケースワーク、グループワークなどの実際の技法を含むものである。教科書の指定は特に行わない。必要に応じて参考プリントを用意する。

## 社会学(福祉)

星野 貞一郎

社会福祉関係の専門職業を志す学生のための社会学講義を旨したい。そこで社会学の基礎的概念を応用して現代社会における社会福祉現象を社会的に理解するた

めの視点を涵養する。そのために、現代社会の特徴を取上げるとともに、家族福祉、組織と官僚制、地域福祉等の問題に社会的にアプローチする。

〔教科書〕星野貞一郎・渡辺武男編『福祉社会学』  
(ミネルヴァ書房) ¥2,400

## 法学(福祉)

小林 弘人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことからについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』  
(川島書店) ¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』〔第2版〕  
(ミネルヴァ書房) ¥2,500

## 社会福祉援助技術現場実習 (老人福祉施設・機関等)

東條 光雅

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

具体的には、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて展開することになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、主に、老人福祉分野ならびに福祉事務所等での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

## 社会福祉援助技術現場実習 (障害児(者)施設・機関等)

伊藤 秀一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的な展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、障害児・者福祉分野での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

# 付 録

研 究 所 案 内

国 家 試 験 に つ い て



# 研 究 所 案 内

## 法 学 研 究 所

本学には大学直属の研究機関として幾つかの研究所があるが、法学部学生諸君に関係するものとして「法学研究所」を紹介しておきたい。

昭和47年4月に設立された法学研究所は、現在、(1)研究部、(2)研修部、(3)法律相談部の三部から構成されている。研修部は、国家試験等の特別受験指導を目的とするが、(イ)司法試験コースと(ロ)公務員試験コースとに分かれている。両コースとも、本学専任教員に加えて、受験指導に経験豊かな外来講師ならびに新進気鋭の法曹実務家が指導に当たっており、原則として月曜日から金曜日にかけて継続的に特別の指導・講義を行っている。また、必要に応じて模擬試験をも行っている。但し公務員コースは現在、その在り方について組織的に検討中のため募集を停止している。

研修部会員になるためには、所定の手続をふまなければならない。また、特別研究室室員を希望する者は所定の入室試験に合格しなければならない。受験資格を有するのは、本学学生および卒業生である。入室試験は、基礎的事項について行われ、憲法、民法、刑法の三科目について試験を行う。(ただし、試験の日時、試験科目等については、年度により変更があるので、掲示等に注意すること。)

国家試験等の受験を志望する学生は、法学研究所の研修部を利用することが合格への近道である。詳細については、法学研究所の事務局(第5研究館102号室)に問い合わせいただきたい。

## マス・コミュニケーション研究所

### 1. 本研究所の主旨

本研究所の学生指導の主旨は現代の情報・社会を的確に把握し、将来、新聞・テレビ・出版・広告などのマス・コミ界をめざす諸君を育成することである。

同時に、本研究所での学習は、商事・貿易などの一般優良企業や公務員、教員などを希望する諸君にも大いに役立つと思われる。本研究所で学んだ多くの先輩はすでに読売新聞や朝日新聞、福島民報、サンケイスポーツ、サンケイ新聞、東映、電通、J. W. トンプソンをはじめ高校教員・大東京火災・日本火災・野村証券・本田技研・フジタ工業・カシオ・サントリー・仙台放送・岩手放送・ぎょうせい・富士通などあらゆる分野の第一線で活躍している。

本研究所の授業・各コースは、学部の授業(単位)とは全く別個なもので自主的な学習意思があれば原則としてだれでも自由に学ぶことができる学習の場である。

駒沢での4年間、あるいは2年間で充実したものにするために、また自分の適性を広げようとする多くの諸君

のできるだけ早い来訪を待っている。

尚、入所試験は4月下旬～5月上旬に、論文及び面接によって行っている。

くわしくは、本研究所事務局(第5研究館102号室)まで。

### 2. 開 講 科 目

(下記の講座の中から1年間に2～4科目を履修する。また、授業は原則として5時限・6時限に行うので学部の授業とは重ならないように配慮してある。)

マス・コミュニケーション論・国際比較マス・コミュニケーション論・文章表現論・情報システム概論・電子計算機実習・企業広報論・時事問題研究・校閲技術論・国際マーケティング論・演習・時事英語など、またそのほか、時に応じて、特別講義・講演などを開講している。(いずれも学内外教員、もしくは現役の新聞論説委員、記者、等によって担当される。)開講科目、内容については本研究所事務局(第5研究館102号室)まで。

# 国家試験について

## 〔1〕司法試験について（司法試験法）

昭和24年5月31日法律第104号  
改正 昭27, 昭28, 昭33, 昭52, 昭56, 昭58

1. (目的) 司法試験は、裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な学識及びその応用能力を有するかどうかを判定することを目的とする国家試験である。
2. (司法試験の種類) 司法試験は、第1次試験及び第2次試験に分けられる。
3. (第1次試験及びその免除について) 第1次試験は、第2次試験を受けるのに相当な教養と一般学力を有するかどうかを判定することをその目的として行われるものであるから、本学において、学士の称号を得るために必要な一般教養科目（一般教養科目の人文・社会・自然の各分野にわたり、合計36単位以上及び第1外国語8単位、第2外国語4単位、計12単位以上）の履修を終った者については、免除される。
4. (第2次試験) 第2次試験は、第1次試験の合格者又は免除された者について、裁判官、検察官又は弁護士になろうとする者に必要な学識及びその応用力を有するかどうかを判定することを目的として行われるもので、短答式及び論文式による筆記並びに口述の方法によって、次の通り実施される。

### (1) 試験科目等

- a. 短答式による試験は、憲法・民法・刑法の3科目について行なわれる。
- b. 論文式による試験は、短答式による試験に合格した者について、次の7科目について行なわれる。
  - (i) 憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法又は刑事訴訟法の5科目。
  - (ii) 民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法、破産法、労働法、国際公法、国際私法、刑事政策のうち選択1科目。なお、[3]において民事訴訟法及び刑事訴訟法を選択しなかった場合に限り、民事訴訟法及び刑事訴訟法は選択することができる。
  - (iii) 政治学、経済原論、財政学、会計学、心理学、経済政策、社会政策のうち選択1科目。
- c. 口述試験は、筆記試験に合格した者につき、その者の論文式試験において受験した7科目について行なわれる。

(2) 第2次試験は、いずれも知識を有するかどうかの判定に偏することなく、その理解力、推理力等についても判定される。

(3) 筆記試験（短答式及び論文式試験）に合格した者については、その申請により、次の筆記試験が免除される。

5. (司法試験の施行) 司法試験は、毎年1回以上実施され、その期日及び場所はあらかじめ官報をもって公告される。
6. (合格者の決定方法等) 司法試験の合格者は、司法試験審査委員の合議によって定められ、合格者には、合格証書が授与される。
7. (受験手数料) 第1次試験 2,800円、第2次試験 5,600円

なお、受付期間、申込方法、採用人員等については、東京都千代田区霞ヶ関1の1法務省司法試験管理委員会に照会すること。以上は、司法試験要項から抜粋したものであるが、今後改正されることもあるので、受験志望者は、官報その他をよく注意してみるように心掛けること。

## 〔2〕国家公務員採用I種試験について

1. 国家公務員採用I種試験とは、従来の国家公務員採用上級試験の甲種の名称が変更されたもので、各省庁の上級係員又は試験研究機関の研究員として事務、技術又は研究の業務に従事する。
2. 受験資格  
学歴・性別などによる制限はなく、試験が行われる年度の4月1日における年齢が21歳以上33歳未満の者。
3. 試験方法  
第1次試験
  - a. 教養試験（多肢選択式）－公務員として必要な一般的知識および知能についての筆記試験。
  - b. 専門試験（多肢選択式）－下記の各区分に応じて必要な専門的知識・技術などの能力についての筆記試験。第2次試験
  - a. 専門試験（記述式）－第1次試験と同じ。
  - b. 総合試験（記述式）－総合的な判断力、思考力などの能力についての筆記試験。
  - c. 人物試験－人柄などについての個別面接。
4. 試験期間  
第1次試験7月上旬、第2次試験が8月上旬、最終合格者の発表は10月上旬。

なお、試験の詳細については人事院任用局試験課(581-5311)または人事院の各地方事務局に照会するように。

〈区分〉

行政、法律、経済、心理、教育、社会、数学、物理、地質、情報工学、電気、電子、機械、土木、建築、化学、金属、資源工学、農業、薬学、農業経済、農業化学、農業工学、畜産、林学、水産、砂防、造園。

### 〔3〕国家公務員採用Ⅱ種試験について

1. 国家公務員採用Ⅱ種試験とは、上級乙種試験と中級試験を統合して「将来の行政の第一線を担い得るような有能な人材を確保するため、大学卒業程度の能力を有する者の採用を充実していくことを目的」とした試験で、各省庁の中級係員として事務・技術又は研究業務などに従事する。

2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、試験が行われる年度の4月1日における年齢が21歳以上29歳未満の者。

3. 試験方法

第1次試験

- 教養試験(多肢選択式)－公務員として必要な一般的知識および知能についての筆記試験。
- 専門試験(多肢選択式)－下記の区分に応じて必要な専門的知識・技術などの能力についての筆記試験。
- 専門試験(記述式)－bと同じ。

第2次試験

- 人物試験(一人柄などについての個別面接)。

4. 試験期間

第1次試験7月上旬、第2次試験が9月上旬、最終合格者の発表は11月上旬。

なお、試験の詳細については人事院任用局試験課(581-5311)または人事院の各地方事務局に照会するように。

〈区分〉

行政、図書館学、物理、電気・電子、機械、土木、建築、化学、資源工学、農学、農業土木、林学。

### 〔4〕裁判所職員(裁判所事務官)採用Ⅰ種試験について

1. 裁判所の機構は大別すると裁判部門と司法行政部門に分けられますが、各裁判所の司法行政部門において、裁判部門が行う裁判権の行使に必要な人的・物的機構を供給し、事務の合理的・効率的な運用を図る等のいわばハウスキーピング的な事務を主として行う国家公

務員を裁判所事務官といい、これらの人を採用する試験が、裁判所事務官採用試験である。

2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、受験する年度の4月1日現在、21歳から26歳までの者。

3. 試験方法

第1次試験

- 教養試験(択一式)－一般的知識及び能力についての筆記試験
- 専門試験A(択一式)－憲法・民法・刑法の専門的知識及び能力についての筆記試験。
- 専門試験B(択一式)－憲法・民法・刑法及び民事訴訟法又は刑事訴訟法の専門的知識及び能力についての筆記試験。

第2次試験

- 専門試験(論文式)－一次試験と同じ4科目の専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。
- 教養試験(論文式)－課題に対する識見、判断力及び理解力についての筆記試験。
- 口述試験－主として人物及び専門的素養について面接による試験

4. 試験期間

第1次試験7月中旬、第2次試験は8月中旬、口述試験は8月下旬から9月中旬にかけ指定する日に行われる。最終合格者の発表は10月上旬。

なお、試験の詳細については、最高裁判所事務総局人事局任用課試験係(264-8111)へ照会するように。

### 〔5〕裁判所職員(裁判所事務官)採用Ⅱ種試験について

1. Ⅰ種試験とはほぼ同じ方法で実施されるが、問題数、出題分野などはⅠ種試験に比べて少なくなる。

2. 受験資格

Ⅰ種試験と同じ。

3. 試験方法

第1次試験

- 教養試験(択一式)－Ⅰ種試験と同じ。
- 専門試験A(択一式)－Ⅰ種試験と同じ。

第2次試験

- 教養試験(論文式)－Ⅰ種試験と同じ。
- 専門試験(論文式)－憲法についての専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。
- 口述試験－Ⅰ種試験と同じ。

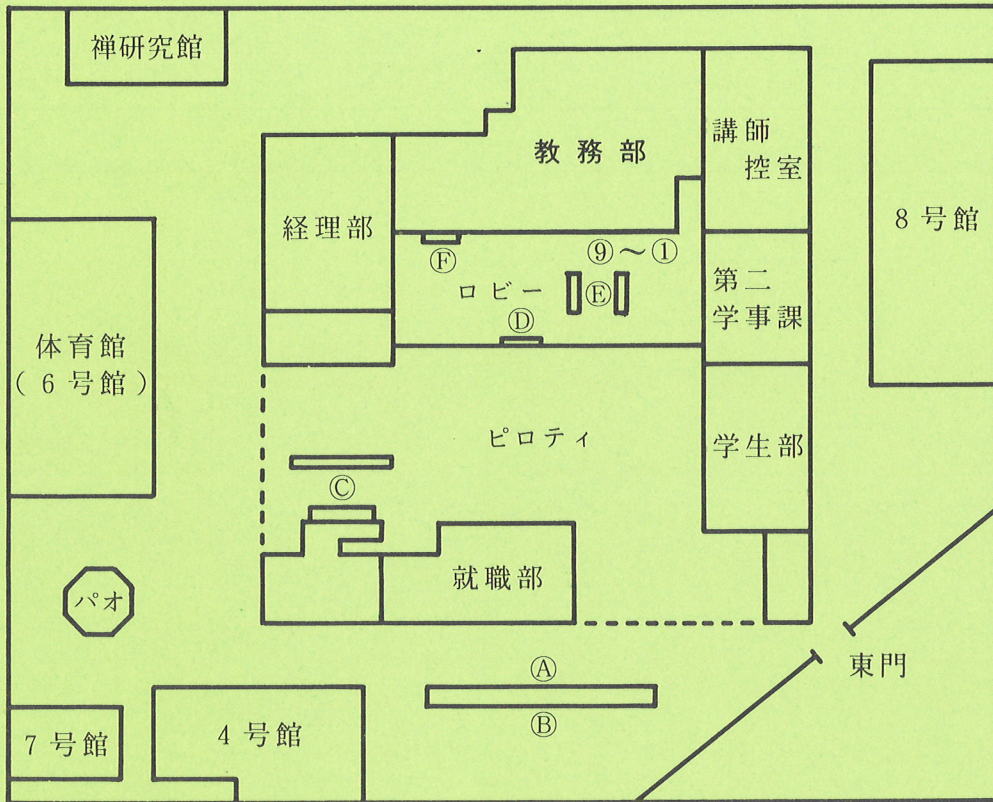
4. 試験期間

試験日程はⅠ種と同じ。合格発表は10月中旬。

なお、試験の詳細については、最高裁判所事務総局人事局任用課試験係(264-8111)へ照会するように。



## 教務部窓口（本部棟1階）および掲示板案内



### ①教職課程

学校図書館司書教諭講座

### ②博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

### ④証明書（教務関係）申込受付・発行

＜健康診断書および在学証明書は学生部＞

※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

⑤諸届願（休学・復学・退学・死亡  
改氏名・本籍地変更・保証人変更）  
保証人住所変更・聴講

### ⑥大学院関係・留学生関係

⑦時間割変更・休講・外国語指定履  
卒業証書・転部転科

### ⑨履修・試験・成績・学業相談

学部演習（仏教学部・経済学部）  
法学部・経営学部

卒業論文（仏教学部・文学部）

### ①第1掲示板（表面）

公示・告示，学生部・就職部関係連絡事項，  
教務部関係（試験・教職・研究室等）連絡事項，  
その他

### ②第2掲示板（裏面）—臨時掲示板—

教務部関係連絡事項（12月～3月），  
就職部関係連絡事項（8月）

### ③第3掲示板—臨時掲示板—

教務部関係連絡事項（12月～3月），  
就職部関係連絡事項（4月～11月）

### ④休講掲示板

### ⑤授業時間表カウンター

### ⑥大学院・留学生関係掲示板



